令和５年

鳥取県感染症発生動向調査事業報告書

令和７年３月

鳥 取 県 福 祉 保 健 部 感 染 症 対 策 セ ン タ ー
鳥取県福祉保健部・生活環境部衛生環境研究所

（鳥 取 県 感 染 症 対 策 協 議 会
情 報 解 析 部 会）

鳥取県感染症発生動向調査について

鳥取県では感染症の発生・拡大に備えた事前対応型行政の構築の観点から、一類感染症から五類感染症の患者発生動向について、一元的に情報収集、分析及び情報の提供・公開体制を構築するとともに病原体に関する情報についても情報提供しています。

これらの情報は患者への良質かつ適切な医療の提供のために必要なものであり、今後とも患者発生の迅速な把握に努めるとともに、積極的な情報の提供・公開を実施してまいります。

目　　次

令和５年感染症発生動向調査概要 …… 1

1　定点把握対象疾患 …… 3

（1）令和５年の発生状況 …… 4
　ア　小児科・インフルエンザ・眼科・基幹定点報告疾病（ウを除く） …… 4
　イ　性感染症（ＳＴＤ）定点報告疾病 …… １６
　ウ　基幹定点報告疾病 …… ２１
（2）インフルエンザ及び感染性胃腸炎の発生状況 …… ２６

2　全数把握対象疾患 …… ２７

（1）令和５年の発生状況 …… ２８
　ア　1類感染症 …… ２８
　イ　2類感染症 …… ２８
　ウ　3類感染症 …… ２８
　エ　4類感染症 …… ２８
　オ　5類感染症 …… ２８
　カ　新型インフルエンザ等感染症 …… ２９
（2）梅毒の発生状況 …… ３２

3　新型コロナウイルス感染症の発生状況及びゲノム解析 …… ３３

（1）新型コロナウイルス感染症の発生状況 …… ３４
（2）新型コロナウイルスゲノム解析結果 …… ３５

4　鳥取県内における感染症集団発生件数 …… ３６

鳥取県内における感染症集団発生件数 …… ３７

5　病原体検査状況 …… ３８

（1）病原体検査状況 …… ３９
　ア　疾病別、月別検査受入状況 …… ３９
　イ　疾病別病原体検出状況 …… ３９
（2）全数把握対象疾患 …… ４６
　ア　ウイルス検査状況 …… ４６
　イ　リケッチア検査状況 …… ４６
　ウ　細菌検査状況 …… ４６

（3）定点把握対象疾患 …… ４８
ア　ウイルス検出状況 …… ４８
イ　細菌検出状況 …… ４８

6　鳥取県感染症発生動向調査情報 月報（抜粋） …… ５３
（鳥取県感染症対策協議会情報解析部会）

7　参考資料 …… ６６
指定届出機関
（定点把握対象の5類感染症患者定点医療機関） …… ６７
指定届出機関
（定点把握対象の5類感染症病原体定点医療機関） …… ６９
鳥取県感染症対策協議会情報解析部会委員名簿 …… ７０

令和5年感染症発生動向調査概要

1 定点把握対象疾患

(1)小児科・インフルエンザ・眼科・基幹定点報告疾病

令和 5 年の患者報告数は 32,862 件であった。報告が多かったものはインフルエンザ 11,233 件、新型コロナウイルス感染症 8,749 件、感染性胃腸炎 5,652 件であった。

1 定点当たりの患者報告数で全国平均と比較して高いものは、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 2.27 倍、無菌性髄膜炎 1.67 倍、新型コロナウイルス感染症 1.08 倍等であった。一方、インフルエンザは 0.83 倍であった。

平成 30 年から令和 4 年の 5 年平均と比較して、ヘルパンギーナ、インフルエンザが増加した一方、伝染性紅斑、感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）は減少した。

なお、新型コロナウイルス感染症は令和 5 年 5 月 8 日から感染症法上の 5 類に分類され、全数把握疾患から定点把握疾患に変更された。

(2)性感染症（STD）定点報告疾病

性感染症（ＳＴＤ）定点報告対象の 4 疾病（性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症）の患者報告数は 503 件と昨年より 3 件増加した。いずれも男性の割合が高く、地域別では西部地区での割合が高かった。

年齢別では、性器クラミジア感染症は 15 歳から 40 歳代に多く、特に 20 歳代が最も多かった。性器ヘルペスウイルス感染症は 20 歳から 64 歳、尖圭コンジローマは 20 歳から 40 歳代、淋菌感染症は 20 歳から 50 歳代と幅広い年齢で多くみられた。

(3)基幹定点報告疾病

基幹定点報告対象の 3 疾病(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症)の患者報告数は 119 件と昨年より 7 件増加した。

2 全数把握対象疾患

(1) 1 類感染症

鳥取県、全国とも発生はなかった。

(2) 2 類感染症

鳥取県では、結核 41 件の報告があった。

(3) 3 類感染症

鳥取県では、腸管出血性大腸菌感染症 19 件の報告があり、その他の感染症では発生はなかった。

(4) 4 類感染症

鳥取県では、レジオネラ症 11 件、日本紅斑熱 3 件、重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属ＳＦＴＳウイルスであるものに限る。）2 件、Ｅ型肝炎 1 件、つつが虫病 1 件、デング熱 1 件の報告があった。

(5) 5 類感染症

鳥取県では、梅毒 29 件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 8 件、侵襲性肺炎球菌感染症 8 件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 6 件、急性脳炎（ウエストナイル脳炎

等を除く。）4 件、アメーバ赤痢 3 件、後天性免疫不全症候群 3 件、侵襲性インフルエンザ菌感染症 3 件、百日咳 3 件、播種性クリプトコックス症 2 件、ウイルス性肝炎（E 型肝炎及びA型肝炎を除く）1 件、急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）1 件、クリプトスポリジウム症 1 件、水痘（入院例に限る。）1 件、麻しん 1 件の報告があった。

（6）新型インフルエンザ等感染症

鳥取県では、新型コロナウイルス感染症 31,877 件の報告があった（令和 5 年 5 月 7 日報告分まで）。

3 新型コロナウイルス感染症の発生状況及びゲノム解析

新型コロナウイルス感染症は、月別では夏期及び冬期に患者報告数が増加する傾向にあった。ゲノム解析の結果では、年間を通じてオミクロン系統の株の流行が続いたが、BA.5 系統、BN.1 系統、BF.7 系統、XBB 組換体、EG.5 系統と主系統が移り変わった。

4 鳥取県内における感染症集団発生件数

令和 5 年の鳥取県での感染症集団発生は、感染性胃腸炎 49 件（前年 22 件）、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 1 件（同 5 件）、ＲＳウイルス感染症 11 件（同 22 件）、咽頭結膜熱 2 件（同 1 件）、手足口病 4 件（同 5 件）、ヘルパンギーナ 3 件（同 0 件）の報告であった。インフルエンザによる臨時休業は 425 件、集団発生は 155 件（共に同 0 件）であった。新型コロナウイルス感染症は、5 月の 5 類移行後 229 件報告されインフルエンザに次ぐ件数となった。

5 病原体検査状況

検体受入件数は 7,594 件で、多い順に新型コロナウイルス感染症 4,476 件、腸管出血性大腸菌感染症 85 件、麻しん 69 件、風しん 69 件、日本紅斑熱 21 件、重症熱性血小板減少症候群（ＳＦＴＳ）14 件等であった。

腸管出血性大腸菌感染症、日本紅斑熱等の 16 疾病の 16 種類 33 型（血清型、遺伝子型、遺伝子型および遺伝子群を含む）のウイルス、リケッチア及び細菌が検出された。主なものは以下のとおり。

（1）腸管出血性大腸菌感染症

O157 が 3 件検出された。

（2）日本紅斑熱

日本紅斑熱リケッチアが 3 件検出された。

（3）つつが虫病

つつが虫病リケッチアが 2 件検出された。

（4）重症熱性血小板減少症候群（SFTS）

ＳＦＴＳウイルスが 2 件検出された。

（5）デング熱

デングウイルスが 1 件検出された。

（6）麻しん

麻しんウイルスが 1 件検出された。

（7）感染性胃腸炎

エンテロウイルスが 12 件、アデノウイルス 9 件、サポウイルス 7 件等検出された。

1　定点把握対象疾患

(1)　令和5年の発生状況

ア　小児科・インフルエンザ・眼科・基幹定点報告疾病（ウを除く）

（ア）　県内の状況（P5 表 1 表 2, P6 表 4, P7 表 5, P8 表 6 参照）

令和 5 年の患者報告数は 32,862 件であった。報告が多かったものはインフルエンザ 11,233 件、新型コロナウイルス感染症 8,749 件、感染性胃腸炎 5,652 件であった。

なお、新型コロナウイルス感染症は令和 5 年 5 月 8 日から感染症法上の 5 類に分類され、全数把握疾患から定点把握疾患に変更された。

地区別の患者報告数は、東部地区 12,275 件（37.35%）、中部地区 8,473 件（25.78%）、西部地区 12,114 件（36.86%）であった。

月別の患者報告数は、例年夏期にはほとんど報告のないインフルエンザが、6 月の月別定点当たり 1.69 人を最小として、年間を通じて定点当たり 1 人を切ることなく報告された。新型コロナウイルス感染症は、8 月には月別定点当たり 105.48 人で最大となった。夏期にはヘルパンギーナ、手足口病及びＲＳウイルス感染症が同時流行し、ヘルパンギーナは 7 月に月別定点当たり 19.95 人、手足口病は 8 月に月別定点当たり 12.84 人、ＲＳウイルス感染症は 7 月に月別定点当たり 19.84 人で最大となった。夏期に複数の疾病が同時に流行し、さらに本来冬期に流行するＲＳウイルス感染症が夏期に流行することも珍しい事であった。

年齢別の患者報告数は、インフルエンザ患者の中心は 20 歳までで、年齢層が上がるにつれて患者の割合が減っているのに対して、新型コロナウイルス感染症患者は年齢層が上がっても減少傾向はあまり見られなかった。

小児科定点での患者報告数については未就学児が中心であったが、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎及び水痘は 10 歳以上でも一定数の患者が見られた。

（イ）全国との比較（P5 表 3 参照）

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の 1 定点当たりの患者報告数は 3.70 人であり、全国平均 1.63 人の 2.27 倍であった。その他、無菌性髄膜炎 1.67 倍、新型コロナウイルス感染症 1.08 倍で患者報告数が全国平均より高かった。一方、インフルエンザは 0.83 倍であった。

（ウ）平成 30 年から令和 4 年の 5 年平均との比較（P6 表 4, P9～15 図 1 参照）

過去数年にわたって新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、感染症対策が県民に浸透したこと等により多くの感染症が減少傾向にあったが、令和 5 年はヘルパンギーナやインフルエンザ等大幅に増加した疾病も見られた。

増加した主な疾病は、ヘルパンギーナ 995 件（過去 5 年平均比 246%）、インフルエンザ 11,233 件（同比 239%）、無菌性髄膜炎 13 件（同比 135%）であった。

減少した主な疾病は、伝染性紅斑 9 件（同比 5%）、感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）5 件（同比 23%）、水痘 63 件（同比 32%）であった。

（エ）新型コロナウイルス感染症発生前との比較（P6 表 4 参照）

全体の患者報告数は、新型コロナウイルス感染症発生前の平成 30 年及び令和元年の約 25,000 件と比べて、令和 5 年は 32,826 件と約 8,000 件の増加であった。令和 5 年の新型コロナウイルス感染症は 8,749 件計上されており、他の疾病の合計はほぼ同数であった。新型コロナウイルス感染症発生後に減少していた患者報告数は発生前の水準まで戻った。

表1　令和５年患者報告状況

令和５年患者報告状況					令和４年患者報告状況	
順位	疾病名	件数	全件数に占める割合	令和４年との比較	順位	件数
1	インフルエンザ（注１）	11,233 件	34.18%	11,207 件増	10	26 件
2	新型コロナウイルス感染症	8,749 件	26.62%	（注２）		
3	感染性胃腸炎（注１）	5,652 件	17.20%	2,445 件増	1	3,207 件
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3,655 件	11.12%	2,121 件増	2	1,534 件
5	ヘルパンギーナ	995 件	3.03%	826 件増	7	169 件
6	RSウイルス感染症	923 件	2.81%	7 件減	3	930 件
7	手足口病	903 件	2.75%	312 件増	4	591 件
8	咽頭結膜熱	374 件	1.14%	153 件増	6	221 件
9	突発性発疹	223 件	0.68%	51 件減	5	274 件
10	水痘	63 件	0.19%	18 件増	8	45 件
	その他	92 件				69 件
	合計	32,862 件	―	25,796 件増		7,066 件

※注１ 冬期に患者報告が多く見られる疾病（インフルエンザ、感染性胃腸炎）については、別集計し 26 ページに掲載。
※注２ 新型コロナウイルス感染症は、令和５年５月８日から感染症法上の５類に分類され、全数把握疾患から定点把握疾患に変更された。

表2 地区別患者報告状況

東部地区		中部地区		西部地区	
1 インフルエンザ	3,812 件	1 インフルエンザ	3,248 件	1 インフルエンザ	4,173 件
2 新型コロナウイルス感染症	2,931 件	2 新型コロナウイルス感染症	2,093 件	2 新型コロナウイルス感染症	3,725 件
3 感染性胃腸炎	2,580 件	3 感染性胃腸炎	1,612 件	3 感染性胃腸炎	1,460 件
4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2,110 件	4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	455 件	4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1,090 件
5 RSウイルス感染症	209 件	5 ヘルパンギーナ	329 件	5 ヘルパンギーナ	512 件
6 その他	633 件	6 その他	736 件	6 その他	1,154 件
合計	12,275 件	合計	8,473 件	合計	12,114 件

表3 県内発生状況の全国・中国五県との比較（定点当たり）

疾病名	鳥取県	中国五県	全国
インフルエンザ	7.45	7.83	8.99
新型コロナウイルス感染症	8.87	7.44	8.18
咽頭結膜熱	0.38	0.67	1.09
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.70	1.81	1.63
感染性胃腸炎	5.72	5.04	4.68
水痘	0.06	0.08	0.10
手足口病	0.91	1.00	0.61
伝染性紅斑	0.01	0.01	0.01
突発性発疹	0.23	0.27	0.25
ヘルパンギーナ	1.01	0.80	1.19
流行性耳下腺炎	0.01	0.03	0.04
RSウイルス感染症	0.93	1.08	0.89
急性出血性結膜炎	0.00	0.01	0.01
流行性角結膜炎	0.17	0.38	0.50
細菌性髄膜炎	0.02	0.02	0.02
無菌性髄膜炎	0.05	0.04	0.03
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.02	0.04
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎（ロタウイルスによるものに限る）	0.02	0.01	0.01

※全国及び中国五県の数値は国立感染症研究所の発表値（速報値）を集計したもの。
※新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、指定届出機関による届出対象疾病となった令和５年第 19 週からの報告件数を元に算出したもの。

表4 感染症年次別発生状況（週報告）

疾病名	平成30年				令和元年				令和2年				令和3年				令和4年				令和5年				平成30年～令和4年 平均患者数			
	全県	東部	中部	西部	全県	東部	中部	西部	全県	東部	中部	西部	全県	東部	中部	西部	全県	東部	中部	西部	全県	東部	中部	西部	全県	東部	中部	西部
インフルエンザ	11,226	3,949	3,034	4,243	9,076	3,144	2,389	3,543	3,160	1,220	951	989	5	0	0	5	26	15	6	5	11,233	3,812	3,248	4,173	4,698.6	1,665.6	1,276.0	1,757.0
新型コロナウイルス感染症																					8,749	2,931	2,093	3,725				
咽頭結膜熱	452	103	129	220	853	106	257	490	319	71	93	155	324	90	81	153	221	95	51	75	374	140	126	108	433.8	93.0	122.2	218.6
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4,502	1,490	909	2,103	4,144	1,929	403	1,812	3,138	1,968	381	789	2,596	1,975	122	499	1,534	1,162	29	343	3,655	2,110	455	1,090	3,182.8	1,704.8	368.8	1,109.2
感染性胃腸炎	6,355	2,623	1,761	1,971	5,770	2,352	1,582	1,836	2,921	1,227	694	1,000	4,047	1,383	1,062	1,602	3,207	1,530	797	880	5,652	2,580	1,612	1,460	4,460.0	1,823.0	1,179.2	1,457.8
水痘	191	54	64	73	335	150	80	105	251	55	80	116	173	84	41	48	45	16	18	11	63	34	16	13	199.0	71.8	56.6	70.6
手足口病	597	164	301	132	2,879	1,120	628	1,131	125	41	17	67	415	269	88	58	591	112	120	359	903	207	294	402	921.4	341.2	230.8	349.4
伝染性紅斑	23	6	5	12	518	150	69	299	316	93	100	123	10	1	1	8	9	1	3	5	9	3	1	5	175.2	50.2	35.6	89.4
突発性発疹	422	141	126	155	361	115	100	146	380	138	92	150	346	114	90	142	274	83	76	115	223	48	64	111	356.6	118.2	96.8	141.6
ヘルパンギーナ	508	145	177	186	531	152	159	220	292	125	85	82	519	166	81	272	169	19	89	61	995	154	329	512	403.8	121.4	118.2	164.2
流行性耳下腺炎	55	10	30	15	42	13	17	12	23	3	10	10	21	2	13	6	5	1	3	1	14	2	7	5	29.2	5.8	14.6	8.8
RSウイルス感染症	626	159	183	284	883	313	258	312	50	9	11	30	1,401	482	435	484	930	355	216	359	923	209	223	491	778.0	263.6	220.6	293.8
急性出血性結膜炎	3	3	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1.0	1.0	0.0	0.0
流行性角結膜炎	150	52	54	44	205	72	81	52	56	35	2	19	32	17	0	15	40	29	0	11	44	27	4	13	96.6	41.0	27.4	28.2
細菌性髄膜炎（髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。）	9	5	0	4	4	2	0	2	4	3	0	1	7	3	1	3	5	2	0	3	6	5	0	1	5.8	3.0	0.2	2.6
無菌性髄膜炎	19	15	1	3	10	7	0	3	6	2	0	4	4	2	0	2	9	5	0	4	13	8	0	5	9.6	6.2	0.2	3.2
マイコプラズマ肺炎	27	21	4	2	68	11	54	3	29	0	25	4	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	25.0	6.4	16.6	2.0
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.4	0.4	0.0	0.0
感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）	62	33	24	5	43	19	23	1	3	2	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	5	4	1	0	21.8	10.8	9.8	1.2
計	25,228	8,974	6,802	9,452	25,724	9,657	6,100	9,967	11,073	4,992	2,542	3,539	9,902	4,589	2,015	3,298	7,066	3,425	1,409	2,232	32,862	12,275	8,473	12,114	15,798.6	6,327.4	3,773.6	5,697.6

※新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、指定届出機関による届出対象疾病となった令和5年第19週からの報告件数である。

表5 感染症月別発生状況（週報告）

第1週から第52週まで（令和5年1月2日～令和5年12月31日）　　（下段：月別定点当たり）

疾病名＼月（月週数）	1月 (4)	2月 (4)	3月 (5)	4月 (4)	5月 (4)	6月 (5)	7月 (4)	8月 (5)	9月 (4)	10月 (4)	11月 (5)	12月 (4)	合計 (52)
インフルエンザ	421	348	678	178	172	49	92	242	575	1,500	4,332	2,646	11,233
	14.52	12.00	23.38	6.14	5.93	1.69	3.17	8.34	19.83	51.72	149.38	91.24	387.34
新型コロナウイルス感染症					255	704	2,034	3,059	1,409	437	321	530	8,749
	0.00	0.00	0.00	0.00	8.79	24.28	70.14	105.48	48.59	15.07	11.07	18.28	301.69
咽頭結膜熱	11	6	18	11	43	62	20	13	11	28	70	81	374
	0.58	0.32	0.95	0.58	2.26	3.26	1.05	0.68	0.58	1.47	3.68	4.26	19.68
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	71	104	128	141	159	272	209	264	309	519	765	714	3,655
	3.74	5.47	6.74	7.42	8.37	14.32	11.00	13.89	16.26	27.32	40.26	37.58	192.37
感染性胃腸炎	370	621	864	698	622	671	346	329	235	271	348	277	5,652
	19.47	32.68	45.47	36.74	32.74	35.32	18.21	17.32	12.37	14.26	18.32	14.58	297.47
水痘	2	6	4	1	4	3	3	7	10	9	11	3	63
	0.11	0.32	0.21	0.05	0.21	0.16	0.16	0.37	0.53	0.47	0.58	0.16	3.32
手足口病	7	1	1	9	12	38	139	244	213	130	92	17	903
	0.37	0.05	0.05	0.47	0.63	2.00	7.32	12.84	11.21	6.84	4.84	0.89	47.53
伝染性紅斑	1	1	1	1	1	0	0	0	2	1	0	1	9
	0.05	0.05	0.05	1.00	0.05	0.00	0.00	0.00	0.11	0.05	0.00	0.05	0.47
突発性発疹	17	26	19	23	18	36	13	13	11	11	21	15	223
	0.89	1.37	1.00	1.21	0.95	1.89	0.68	0.68	0.58	0.58	1.11	0.79	11.74
ヘルパンギーナ	1	4	1	0	20	325	379	166	68	28	2	1	995
	0.05	0.21	0.05	0.00	1.05	17.11	19.95	8.74	3.58	1.47	0.11	0.05	52.37
流行性耳下腺炎	1	0	1	2	1	1	3	0	3	2	0	0	14
	0.05	0.00	0.05	0.11	0.05	0.05	0.16	0.00	0.16	0.11	0.00	0.00	0.74
RSウイルス感染症	4	4	5	27	54	194	377	187	51	14	2	4	923
	0.21	0.21	0.26	1.42	2.84	10.21	19.84	9.84	2.68	0.74	0.11	0.21	48.58
急性出血性結膜炎	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	0.00	0.00	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20
流行性角結膜炎	2	0	0	0	4	4	2	5	4	8	8	7	44
	0.40	0.00	0.00	0.00	0.80	0.80	0.40	1.00	0.80	1.60	1.60	1.40	8.80
細菌性髄膜炎（髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。）	0	0	1	0	0	2	0	1	0	1	0	1	6
	0.00	0.00	0.20	0.00	0.00	0.40	0.00	0.20	0.00	0.20	0.00	0.20	1.20
無菌性髄膜炎	0	0	0	2	0	1	1	1	0	3	2	3	13
	0.00	0.00	0.00	0.40	0.00	0.20	0.20	0.20	0.00	0.60	0.40	0.60	2.60
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）	0	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5
	0.00	0.20	0.60	0.00	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00
計	908	1,122	1,725	1,093	1,366	2,362	3,618	4,531	2,901	2,962	5,974	4,300	32,862

※新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、指定届出機関による届出対象疾病となった令和5年第19週からの報告件数である。

表6 感染症年齢別患者報告数の分布（週報告）

第1週から第52週まで（令和5年1月2日～令和5年12月31日）

※インフルエンザ/COVID-19定点数は29定点

疾病名	～5カ月	～11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	合計
インフルエンザ	34	103	338	416	509	589	777	740	774	752	668	2,304	820	463	649	586	299	195	119	98	11,233
	0.30%	0.92%	3.01%	3.70%	4.53%	5.24%	6.92%	6.59%	6.89%	6.69%	5.95%	20.51%	7.30%	4.12%	5.78%	5.22%	2.66%	1.74%	1.06%	0.87%	
新型コロナウイルス感染症	98	123	166	164	170	161	190	182	200	168	176	785	625	801	839	960	870	681	689	701	8,749
	1.12%	1.41%	1.90%	1.87%	1.94%	1.84%	2.17%	2.08%	2.29%	1.92%	2.01%	8.97%	7.14%	9.16%	9.59%	10.97%	9.94%	7.78%	7.88%	8.01%	
計	132	226	504	580	679	750	967	922	974	920	844	3,089	1,445	1,264	1,488	1,546	1,169	876	808	799	19,982
	1%	1%	3%	3%	3%	4%	5%	5%	5%	5%	4%	15%	7%	6%	7%	8%	6%	4%	4%	4%	

※新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、第19週からの報告である。

※小児科定点数は19定点

疾病名	～5カ月	～11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳以上	合計
咽頭結膜熱	3	35	119	67	41	38	31	14	8	5	2	6	0	5	374
	0.80%	9.36%	31.82%	17.91%	10.96%	10.16%	8.29%	3.74%	2.14%	1.34%	0.53%	1.60%	0.00%	1.34%	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	16	154	221	327	421	389	379	331	285	216	557	142	216	3,655
	0.03%	0.44%	4.21%	6.05%	8.95%	11.52%	10.64%	10.37%	9.06%	7.80%	5.91%	15.24%	3.89%	5.91%	
感染性胃腸炎	41	318	1,050	806	589	603	506	331	266	236	157	401	71	277	5,652
	0.73%	5.63%	18.58%	14.26%	10.42%	10.67%	8.95%	5.86%	4.71%	4.18%	2.78%	7.09%	1.26%	4.90%	
水痘	0	3	5	7	5	3	8	4	2	7	5	13	0	1	63
	0.00%	4.76%	7.94%	11.11%	7.94%	4.76%	12.70%	6.35%	3.17%	11.11%	7.94%	20.63%	0.00%	1.59%	
手足口病	10	96	328	219	111	66	33	17	10	2	3	8	0	0	903
	1.11%	10.63%	36.32%	24.25%	12.29%	7.31%	3.65%	1.88%	1.11%	0.22%	0.33%	0.89%	0.00%	0.00%	
伝染性紅斑	0	1	3	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	9
	0.00%	11.11%	33.33%	33.33%	0.00%	11.11%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	11.11%	
突発性発疹	1	80	114	21	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	223
	0.45%	35.87%	51.12%	9.42%	2.24%	0.90%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
ヘルパンギーナ	4	56	213	202	200	145	80	51	14	10	5	11	1	3	995
	0.40%	5.63%	21.41%	20.30%	20.10%	14.57%	8.04%	5.13%	1.41%	1.01%	0.50%	1.11%	0.10%	0.30%	
流行性耳下腺炎	0	0	0	2	0	4	3	1	3	0	0	1	0	0	14
	0.00%	0.00%	0.00%	14.29%	0.00%	28.57%	21.43%	7.14%	21.43%	0.00%	0.00%	7.14%	0.00%	0.00%	
RSウイルス感染症	114	142	296	176	86	54	18	12	7	3	3	8	2	2	923
	12.35%	15.38%	32.07%	19.07%	9.32%	5.85%	1.95%	1.30%	0.76%	0.33%	0.33%	0.87%	0.22%	0.22%	
計	174	747	2,282	1,724	1,364	1,337	1,068	809	641	548	391	1,005	216	505	12,811
	1%	6%	18%	13%	11%	10%	8%	6%	5%	4%	3%	8%	2%	4%	

※眼科定点数は5定点

疾病名	～5カ月	～11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	合計
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
流行性角結膜炎	0	1	2	1	3	0	0	0	1	0	0	0	0	3	18	8	5	2	0	0	44
	0.00%	2.27%	4.55%	2.27%	6.82%	0.00%	0.00%	0.00%	2.27%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	6.82%	40.91%	18.18%	11.36%	4.55%	0.00%	0.00%	
計	0	1	2	1	3	0	0	0	1	0	0	0	0	3	19	8	5	2	0	0	45
	0%	2%	4%	2%	7%	0%	0%	0%	2%	0%	0%	0%	0%	7%	42%	18%	11%	4%	0%	0%	

※基幹定点数は5定点

疾病名	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計
細菌性髄膜炎（髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。）	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	6
	16.67%	16.67%	0.00%	16.67%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	16.67%	0.00%	0.00%	16.67%	16.67%	0.00%	
無菌性髄膜炎	2	0	1	0	1	0	0	4	1	0	1	1	0	0	1	1	13
	15.38%	0.00%	7.69%	0.00%	7.69%	0.00%	0.00%	30.77%	7.69%	0.00%	7.69%	7.69%	0.00%	0.00%	7.69%	7.69%	
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）	0	3	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5
	0.00%	60.00%	20.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	20.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
計	3	4	2	1	1	0	0	4	1	1	2	1	0	1	2	1	24
	13%	17%	8%	4%	4%	0%	0%	17%	4%	4%	8%	4%	0%	4%	8%	4%	

地区別発生状況　　年次別発生状況　　鳥取県・中国五県平均・全国平均の比較

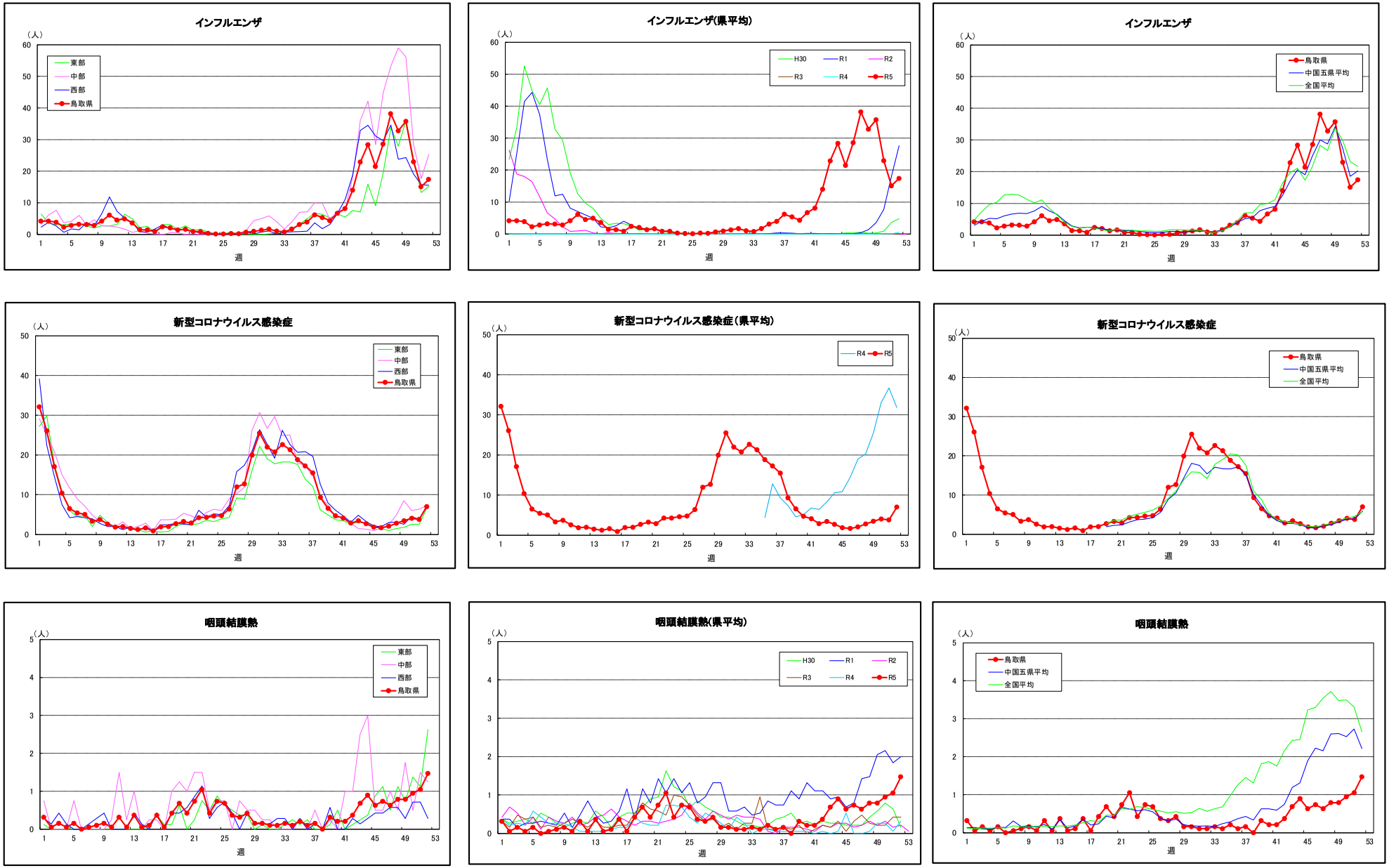


図1　令和5年定点把握感染症発生状況（疾病別：定点当たり）

地区別発生状況　　年次別発生状況　　鳥取県・中国五県平均・全国平均の比較

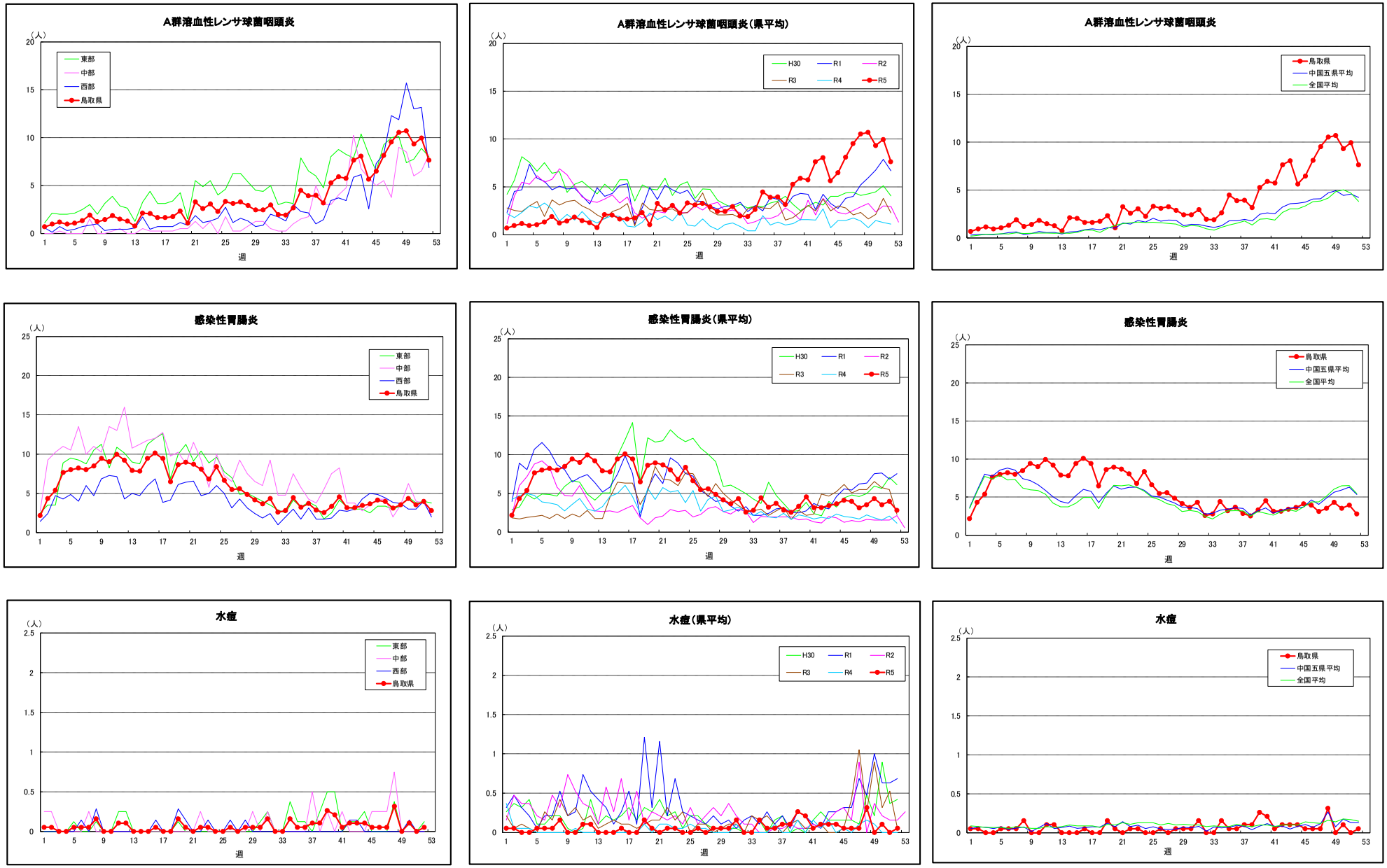


図1　令和5年定点把握感染症発生状況（疾病別：定点当たり）

地区別発生状況　　年次別発生状況　　鳥取県・中国五県平均・全国平均の比較

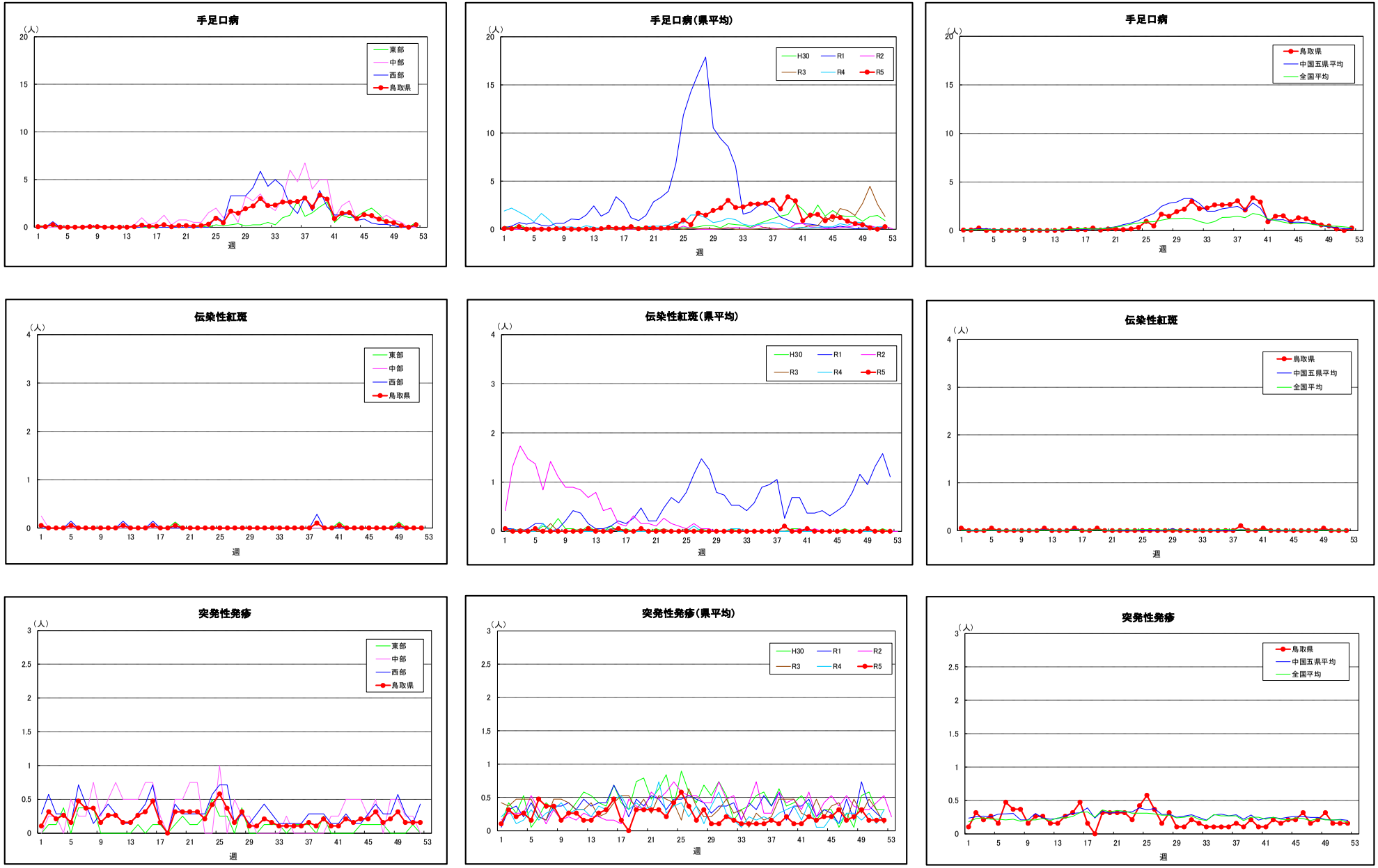


図1　令和5年定点把握感染症発生状況(疾病別:定点当たり)

地区別発生状況　　年次別発生状況　　鳥取県・中国五県平均・全国平均の比較

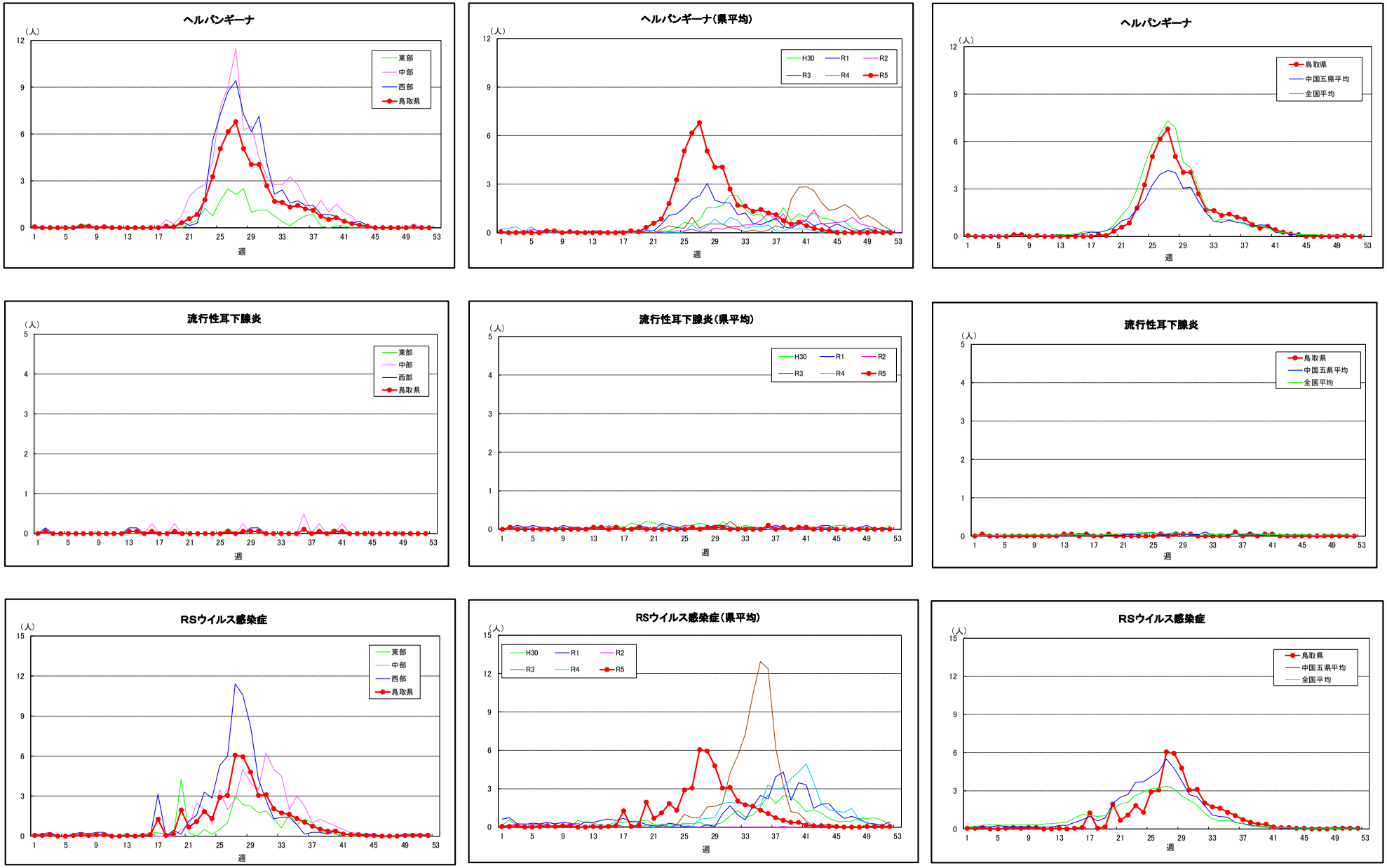


図1　令和5年定点把握感染症発生状況（疾病別：定点当たり）

地区別発生状況　　年次別発生状況　　鳥取県・中国五県平均・全国平均の比較

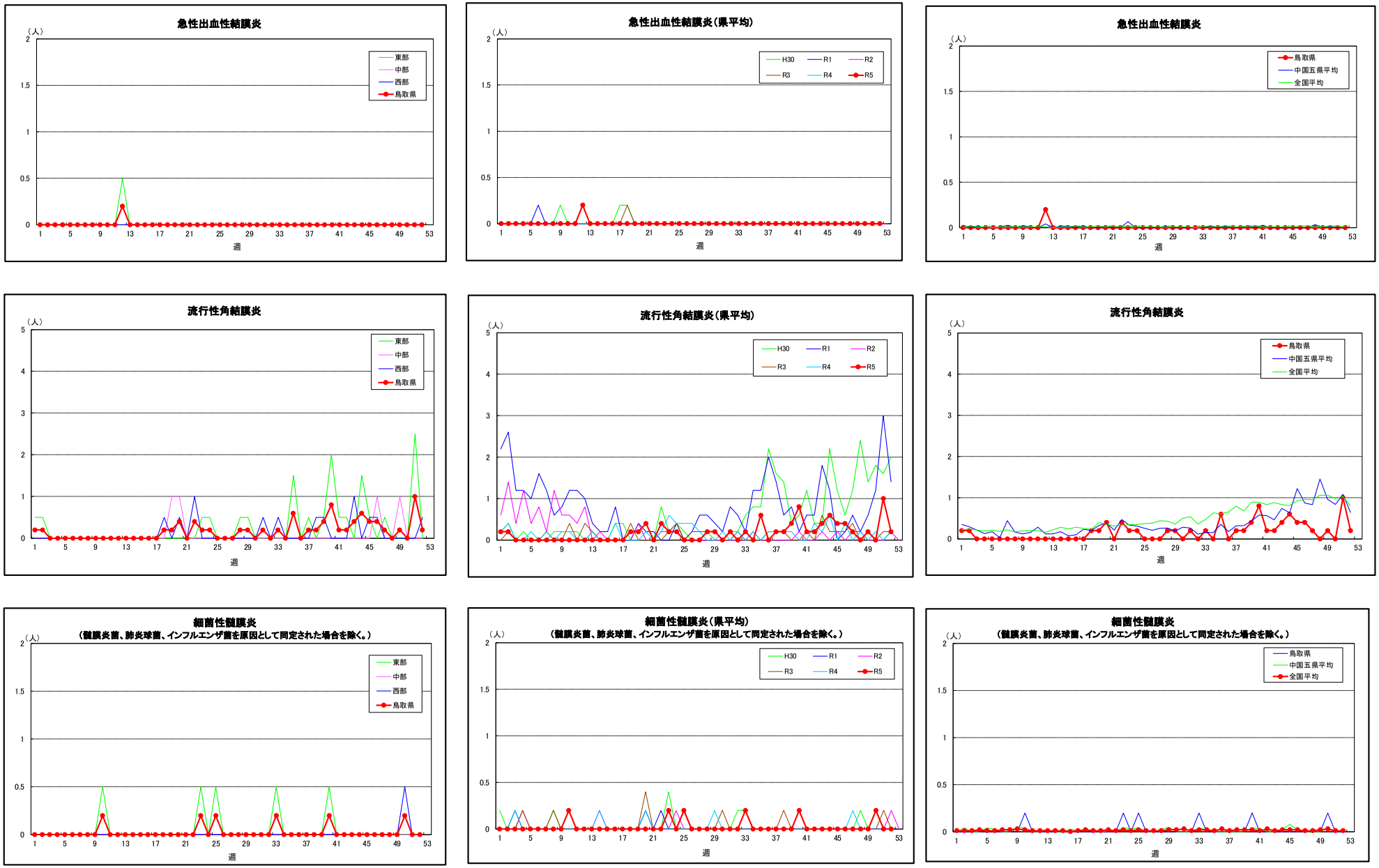
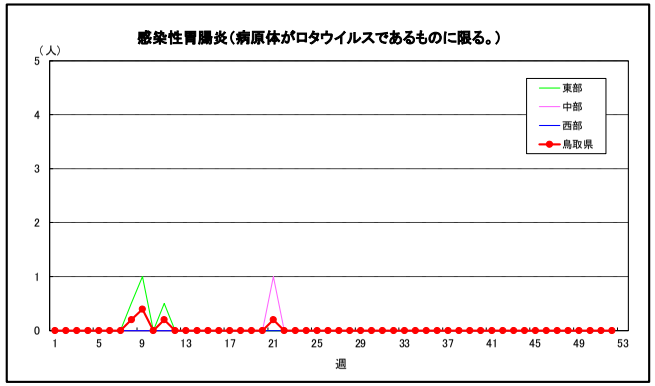


図1　令和5年定点把握感染症発生状況（疾病別：定点当たり）

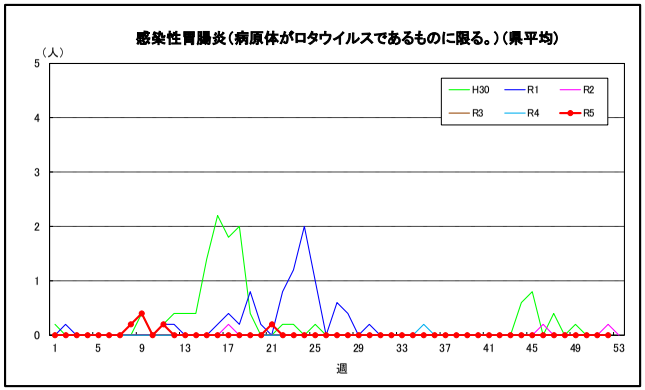
地区別発生状況　　年次別発生状況　　鳥取県・中国五県平均・全国平均の比較

図1　令和5年定点把握感染症発生状況（疾病別：定点当たり）

地区別発生状況



年次別発生状況



鳥取県・中国五県平均・全国平均の比較

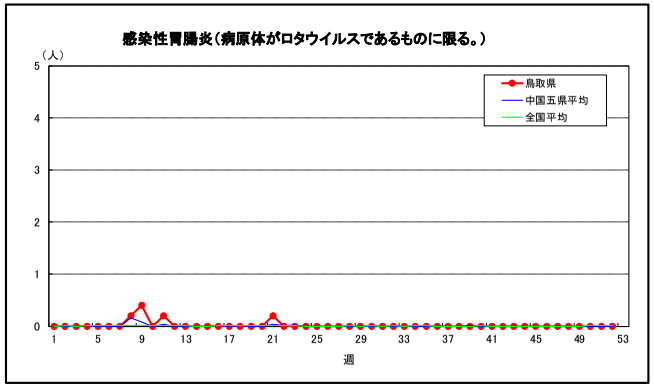


図1　令和5年定点把握感染症発生状況（疾病別：定点当たり）

イ　性感染症（STD）定点報告疾病

性感染症（ＳＴＤ）定点報告対象の 4 疾病（性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症）の患者報告数は 503 件であり昨年より 3 件増加した。なお、性器クラミジア感染症は対前年 3 件減少、性器ヘルペスウイルス感染症は対前年 6 件減少、尖圭コンジローマは対前年 15 件増加、淋菌感染症は対前年 3 件減少であった（P17 表 7、P19 図 2-1 参照）。

性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ及び淋菌感染症の性別患者報告数はいずれも男性の割合が高く（各々73%、59%、70%、78%）、地域別患者報告数ではいずれも西部地区での割合が高かった（各々73%、63%、73%、78%）（P17 表 8、P19 図 2-2、P20 図 2-3 参照）。

また、年齢別患者報告数については、性器クラミジア感染症は 15 歳から 40 歳代に多く、特に 20 歳代が最も多かった。性器ヘルペスウイルス感染症は 20 歳から 64 歳、尖圭コンジローマは 20 歳から 40 歳代、淋菌感染症は 20 歳から 50 歳代と幅広い年齢で多くみられた（P18 表 9、P20 図 2-4 参照）。

表7 性感染症（STD）年次別発生状況（月報告）

※性感染症（STD）定点数は7定点

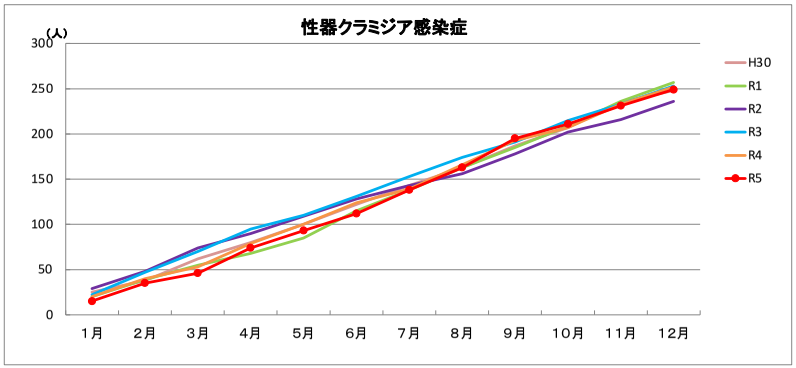
	疾病名＼月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	1定点当たり
平成30年	性器クラミジア感染症	25	13	24	18	20	22	21	20	24	20	28	13	248	35.4
	性器ヘルペスウイルス感染症	6	15	10	5	9	4	11	16	5	10	7	11	109	15.6
	尖圭コンジローマ	8	3	0	3	3	3	4	4	7	4	8	4	51	7.3
	淋菌感染症	13	5	13	6	8	10	5	13	4	3	4	0	84	12.0
令和元年	性器クラミジア感染症	20	19	16	13	17	30	23	25	22	24	27	21	257	36.7
	性器ヘルペスウイルス感染症	11	9	11	19	11	14	14	10	17	19	13	8	156	22.3
	尖圭コンジローマ	4	5	6	2	5	2	5	5	3	7	6	1	51	7.3
	淋菌感染症	4	4	5	2	7	5	3	10	3	5	2	5	55	7.9
令和2年	性器クラミジア感染症	29	19	26	16	19	19	15	13	22	24	14	20	236	33.7
	性器ヘルペスウイルス感染症	17	14	3	15	12	13	19	9	9	13	9	8	141	20.1
	尖圭コンジローマ	5	6	3	3	5	6	3	6	3	4	8	2	54	7.7
	淋菌感染症	8	9	8	4	4	9	11	11	4	1	3	4	76	10.9
令和3年	性器クラミジア感染症	22	25	23	25	15	21	22	21	17	24	18	20	253	36.1
	性器ヘルペスウイルス感染症	14	5	6	7	15	15	14	6	6	19	21	11	139	19.9
	尖圭コンジローマ	3	3	2	1	4	4	6	6	3	4	2	5	43	6.1
	淋菌感染症	6	3	9	5	2	1	7	9	10	5	3	4	64	9.1
令和4年	性器クラミジア感染症	20	20	13	26	21	24	15	27	27	14	26	19	252	36.0
	性器ヘルペスウイルス感染症	11	12	13	11	14	19	8	6	13	8	6	8	129	18.4
	尖圭コンジローマ	3	2	2	3	3	1	6	4	7	3	4	0	38	5.4
	淋菌感染症	3	3	12	8	5	3	12	9	8	4	13	1	81	11.6
令和5年	性器クラミジア感染症	15	20	11	28	19	19	26	25	32	16	20	18	249	35.6
	性器ヘルペスウイルス感染症	7	10	6	15	7	9	14	11	8	6	13	17	123	17.6
	尖圭コンジローマ	4	1	1	6	4	10	5	2	5	7	1	7	53	7.6
	淋菌感染症	6	3	11	8	9	7	7	5	4	6	8	4	78	11.1

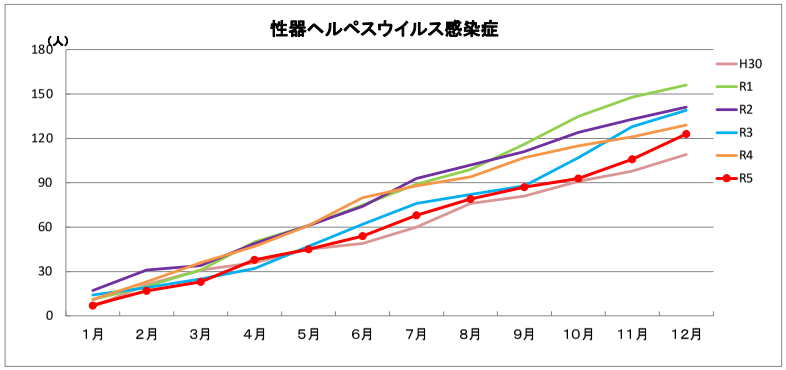
表8 性感染症（STD）性別・地区別発生状況（月報告）

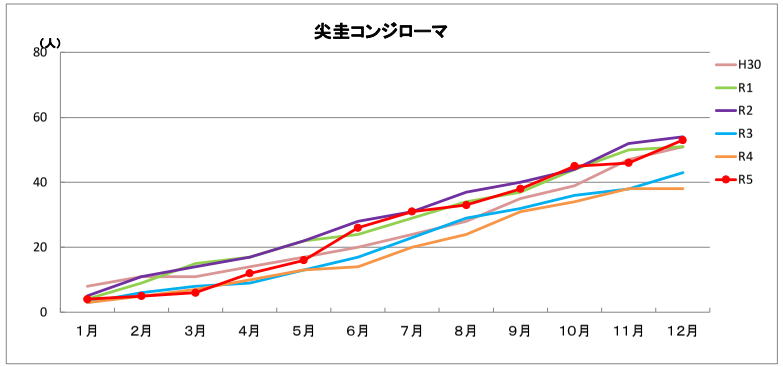
	疾病名	性別			地区別		
		計	男	女	東部	中部	西部
平成30年	性器クラミジア感染症	248	169	79	80	13	155
	性器ヘルペスウイルス感染症	109	70	39	32	4	73
	尖圭コンジローマ	51	33	18	8	4	39
	淋菌感染症	84	62	22	38	9	37
令和元年	性器クラミジア感染症	257	171	86	60	16	181
	性器ヘルペスウイルス感染症	156	98	58	44	6	106
	尖圭コンジローマ	51	35	16	16	3	32
	淋菌感染症	55	45	10	14	1	40
令和2年	性器クラミジア感染症	236	156	80	66	9	161
	性器ヘルペスウイルス感染症	141	87	54	33	6	102
	尖圭コンジローマ	54	29	25	11	3	40
	淋菌感染症	76	61	15	26	6	44
令和3年	性器クラミジア感染症	253	169	84	63	8	182
	性器ヘルペスウイルス感染症	139	88	51	32	5	102
	尖圭コンジローマ	43	26	17	4	3	36
	淋菌感染症	64	56	8	13	1	50
令和4年	性器クラミジア感染症	252	167	85	57	11	184
	性器ヘルペスウイルス感染症	129	78	51	46	10	73
	尖圭コンジローマ	38	26	12	12	3	23
	淋菌感染症	81	67	14	14	6	61
令和5年	性器クラミジア感染症	249	181	68	56	10	183
	性器ヘルペスウイルス感染症	123	72	51	36	10	77
	尖圭コンジローマ	53	37	16	7	8	38
	淋菌感染症	78	61	17	16	1	61

表9　性感染症（STD）年齢別患者報告数の分布（月報告）

疾病名		1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上
平成30年	性器クラミジア感染症	0	0	0	20	47	45	47	32	29	17	2	6	2	0	1
	性器ヘルペスウイルス感染症	0	0	0	3	8	16	18	19	11	13	5	5	5	2	4
	尖圭コンジローマ	0	0	1	3	10	9	7	5	7	2	5	1	1	0	0
	淋菌感染症	0	0	0	6	13	19	10	16	7	5	3	1	2	0	2
令和元年	性器クラミジア感染症	0	0	0	21	63	45	35	34	22	16	8	5	4	3	1
	性器ヘルペスウイルス感染症	0	0	0	4	12	18	27	22	12	17	7	10	3	6	18
	尖圭コンジローマ	1	0	0	2	8	9	5	5	5	5	4	1	3	2	1
	淋菌感染症	0	0	0	2	7	14	8	9	6	3	2	2	0	2	0
令和2年	性器クラミジア感染症	0	0	0	26	47	48	29	20	22	17	11	6	6	2	2
	性器ヘルペスウイルス感染症	0	0	0	2	17	14	23	17	13	11	13	11	4	5	11
	尖圭コンジローマ	0	0	0	1	8	8	10	8	3	1	4	5	2	2	2
	淋菌感染症	0	0	0	5	14	16	11	0	13	5	1	3	8	0	0
令和3年	性器クラミジア感染症	0	0	0	22	79	59	25	24	13	15	11	2	2	1	0
	性器ヘルペスウイルス感染症	0	0	0	4	15	16	17	14	18	9	12	16	7	3	8
	尖圭コンジローマ	0	0	0	2	9	7	9	4	4	1	0	1	2	1	3
	淋菌感染症	0	0	0	3	12	17	10	7	9	4	0	0	2	0	0
令和4年	性器クラミジア感染症	0	0	0	22	72	53	34	25	18	8	13	5	1	1	0
	性器ヘルペスウイルス感染症	0	1	0	5	12	26	13	15	17	11	13	3	2	1	10
	尖圭コンジローマ	0	0	0	3	16	3	3	2	0	2	3	2	0	1	3
	淋菌感染症	0	0	0	7	18	19	12	10	5	5	4	0	0	1	0
令和5年	性器クラミジア感染症	0	0	0	22	65	54	33	15	22	18	5	9	4	2	0
	性器ヘルペスウイルス感染症	0	0	1	4	12	16	14	11	11	11	11	12	13	2	5
	尖圭コンジローマ	0	0	0	3	7	10	8	3	5	10	1	1	1	1	3
	淋菌感染症	0	0	1	6	17	13	13	5	6	5	4	6	2	0	0







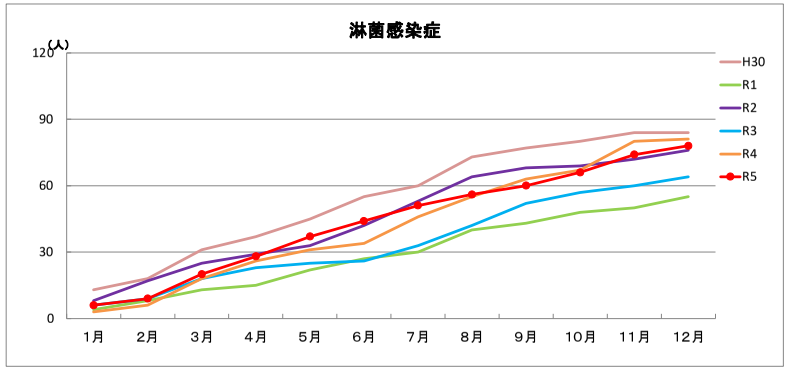
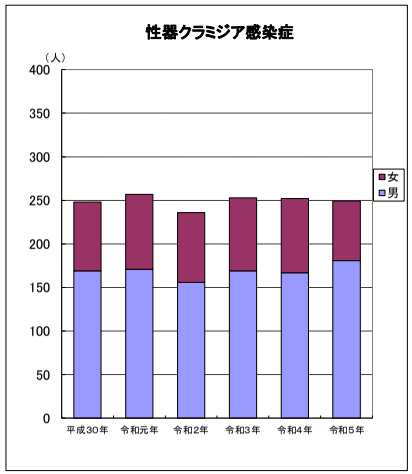
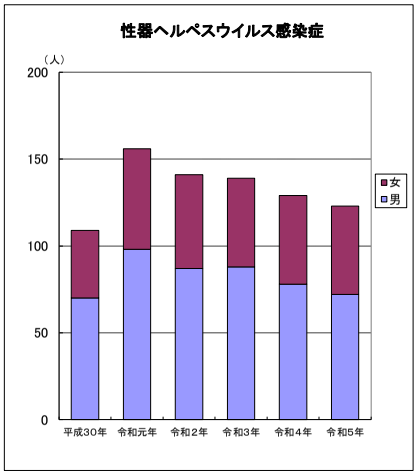
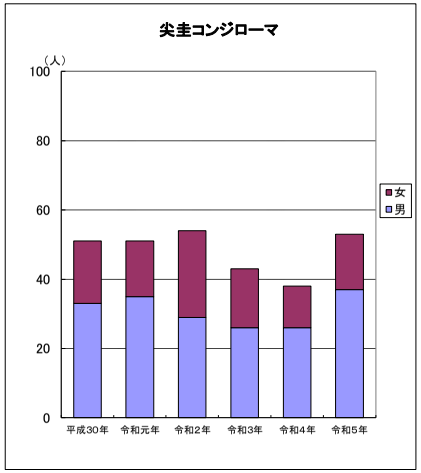


図2－1　性感染症（STD）発生状況（疾病別：累計）







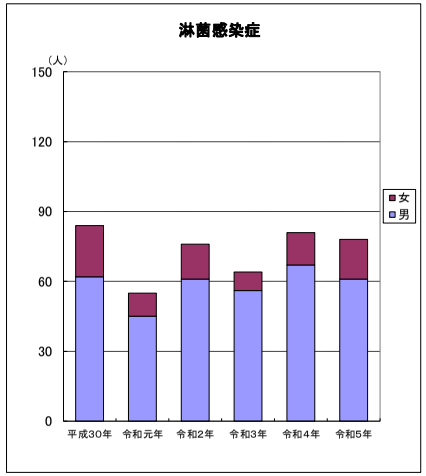
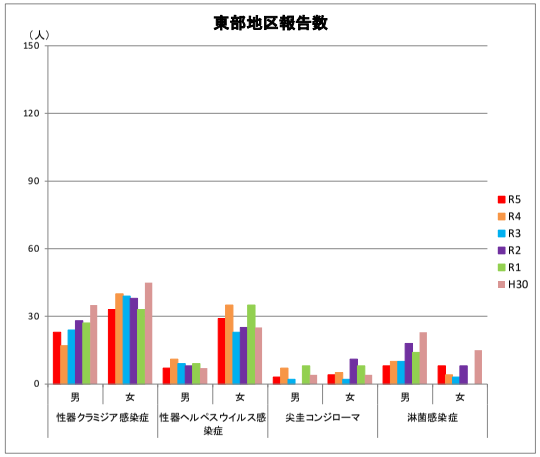
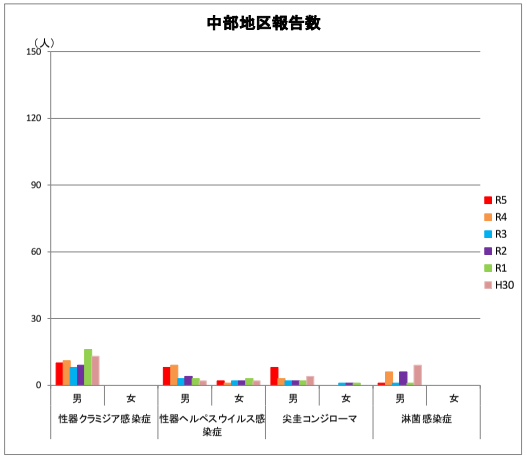


図2－2　性感染症（STD）発生状況（疾病別：性別）





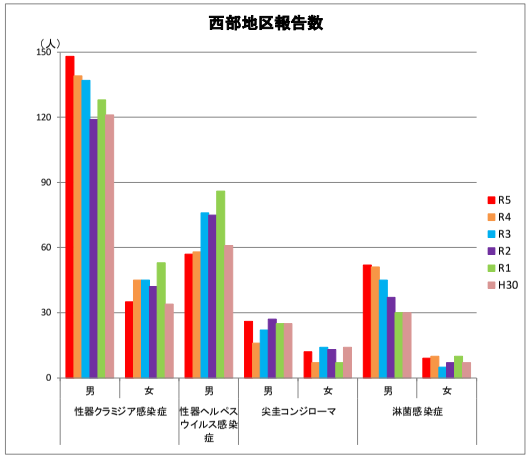
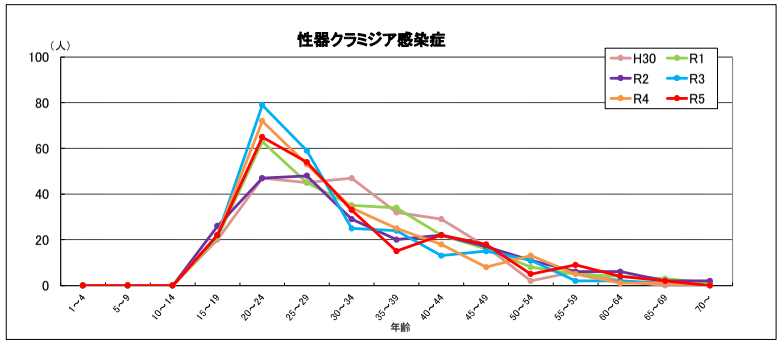
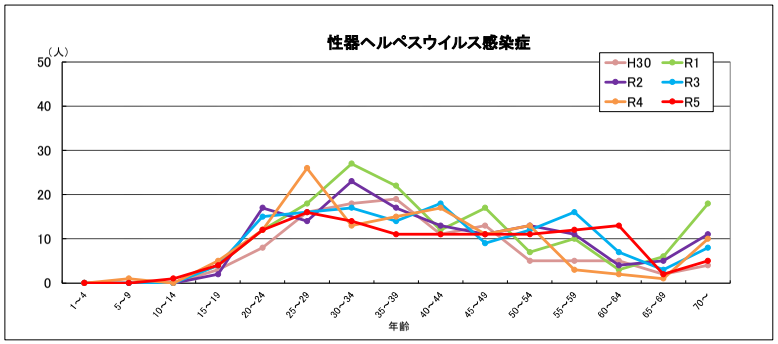
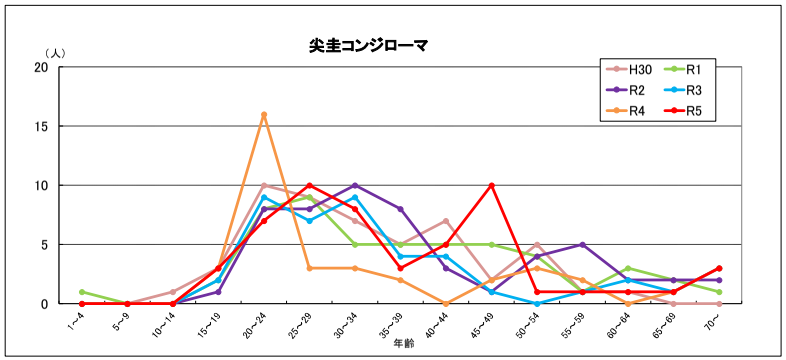


図2－3　性感染症（STD）発生状況（地区別：疾病別・性別）







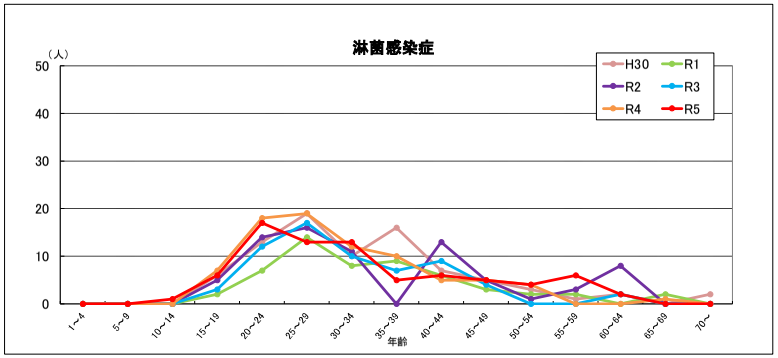


図2－4　性感染症（STD）発生状況（疾病別：年齢別）

ウ　基幹定点報告疾病

基幹定点報告対象の 3 疾病（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症）の患者報告数は 119 件と昨年より 7 件増加した。なお、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症は 108 件患者報告があり、対前年 6 件増加、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症は 10 件患者報告があり、薬剤耐性緑膿菌感染症は 1 件患者報告があった（P22 表 10、P24 図 3-1 参照）。

性別・地区別患者報告数については P22 表 11 及び P24 図 3-2 のとおりであり、年齢別患者報告数はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症が 70 歳以上で 76%と多かった(P23 表 12、P25 図 3-3 参照）。

新型コロナウイルス感染症発生前の平成 30 年及び令和元年との比較では、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症はどちらも減少した。

表10 基幹病院年次別発生状況（月報告）

※基幹病院定点数は5定点

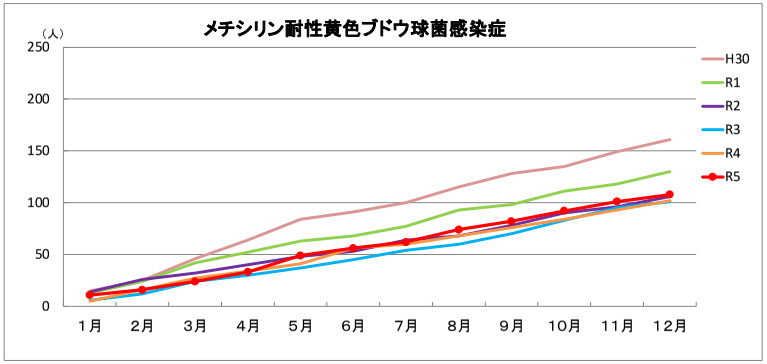
	疾病名＼月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	1定点当たり
平成30年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	15	10	21	18	20	7	9	15	13	7	14	12	161	32.2
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	4	1	1	1	3	2	2	1	1	1	1	0	18	3.6
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
令和元年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	13	11	18	10	11	5	9	16	5	13	7	12	130	26.0
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	2	1	2	2	2	2	1	0	1	2	3	18	3.6
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0.2
令和2年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	14	12	6	8	8	5	11	4	10	12	6	10	101	20.2
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	2	3	0	2	1	0	0	1	1	0	1	5	1.0
	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0.0
令和3年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	6	6	12	6	7	8	9	6	10	13	12	6	101	20.2
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	0	1	5	1.0
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
令和4年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5	11	11	7	7	15	4	8	8	8	9	9	102	20.4
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	0	1	1	1	0	2	0	0	2	0	2	10	2.0
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
令和5年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	11	5	8	9	16	7	6	12	8	10	9	7	108	21.6
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	1	1	0	1	2	1	2	0	2	0	0	10	2.0
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0.2

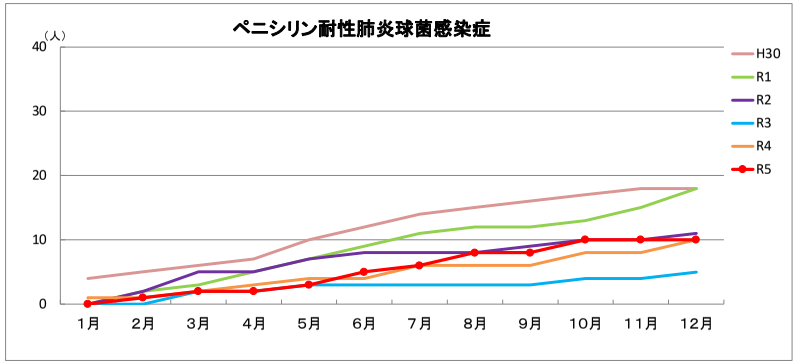
表11 基幹病院性別・地区別発生状況（月報告）

疾病名		性別			地区別		
		計	男	女	東部	中部	西部
平成30年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	161	96	65	69	27	65
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	18	14	4	0	0	18
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0
令和元年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	130	77	53	57	22	51
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	18	11	7	0	0	18
	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	1	0	1	0	0
令和2年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	106	73	33	43	15	48
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	11	8	3	1	0	10
	薬剤耐性緑膿菌感染症	2	1	1	0	1	1
令和3年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	101	62	39	41	23	37
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	5	2	3	0	2	3
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0
令和4年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	102	64	38	35	15	52
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	10	6	4	0	0	10
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0
令和5年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	108	66	42	32	29	47
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	10	6	4	0	1	9
	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	1	0	0	0	1

表12　基幹病院年齢別患者報告数の分布（月報告）

疾病名		0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上
平成30年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3	1	0	1	1	3	0	5	2	4	9	4	13	11	104
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2	0	0	0	0	0	2	1	0	0	1	0	1	5	6
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
令和元年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	10	3	0	1	0	0	4	0	5	0	4	8	5	11	79
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	5	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3	3	5
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
令和2年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	4	0	0	1	1	1	1	1	1	0	4	4	9	5	74
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	7
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
令和3年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3	0	0	0	0	0	0	2	1	1	4	3	5	8	74
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
令和4年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	2	0	0	2	0	3	1	3	0	0	2	4	9	10	66
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	7
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
令和5年	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1	0	0	1	0	2	0	1	3	1	2	2	5	8	82
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	5
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0





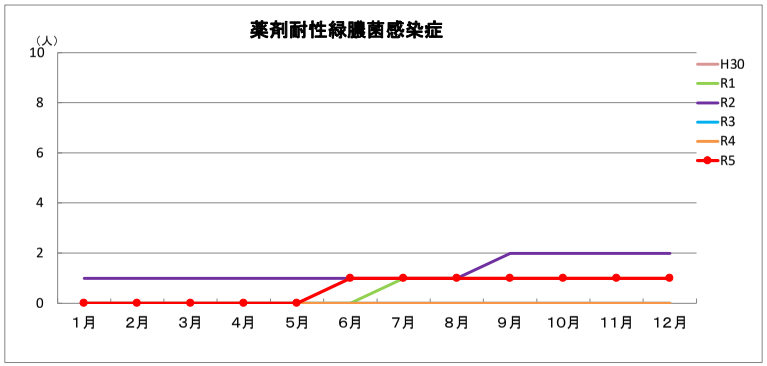
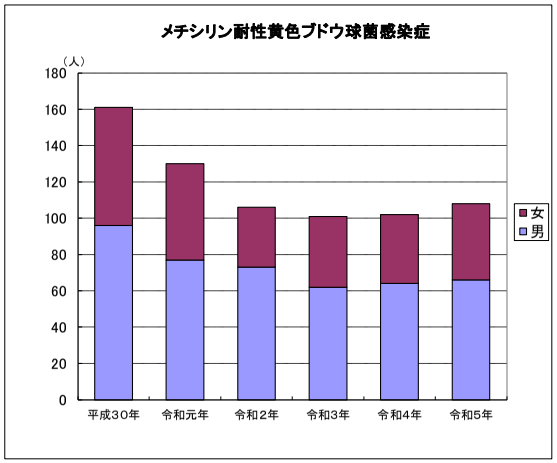
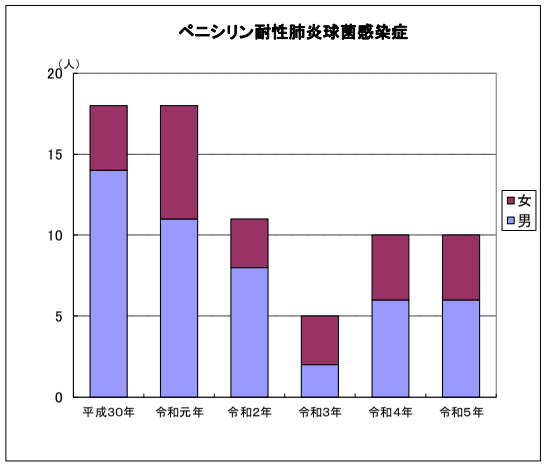


図3－1　基幹病院発生状況（疾病別：累計）





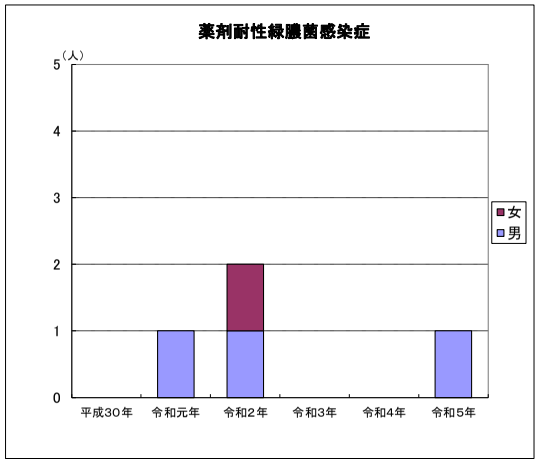
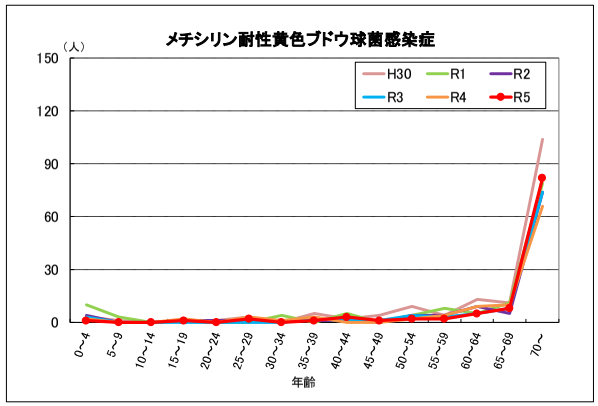
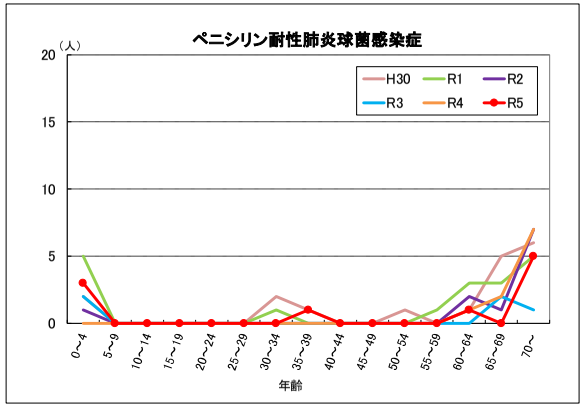


図3－2　基幹病院発生状況（疾病別：性別）





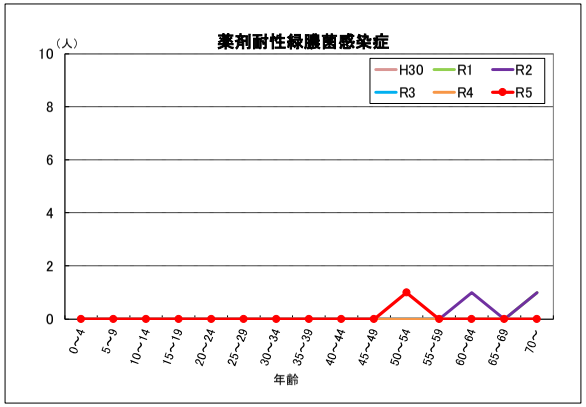


図3－3　基幹病院発生状況（疾病別：年齢別）

(2)　インフルエンザ及び感染性胃腸炎の発生状況（表13、図4参照）

令和5年シーズン（令和5年6月下旬～令和6年6月下旬）の特徴。

インフルエンザは、ここ数年患者報告数が大幅に減少していたが、令和5年は新型コロナウイルス感染症発生前よりも大幅に増加し、例年より早い時期から流行が見られた。

感染性胃腸炎は、患者報告数は例年並みで大きな流行は見られなかった。

表13 インフルエンザ及び感染性胃腸炎の発生状況

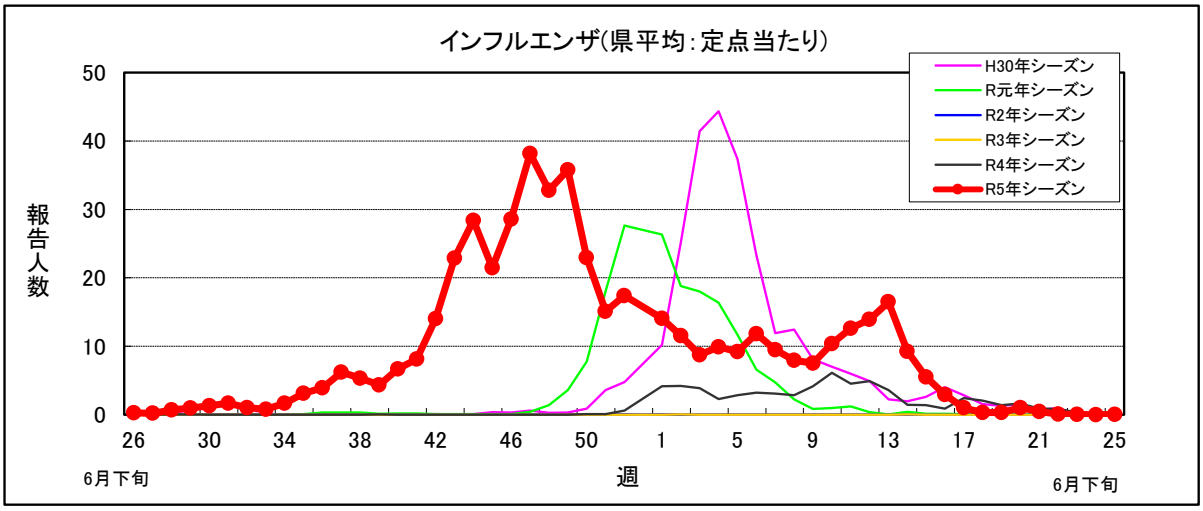
インフルエンザ（単位：人）

	東部	中部	西部	県計
平成30年シーズン	2,523	2,038	3,106	7,667
令和元年シーズン	1,929	1,356	1,640	4,925
令和2年シーズン	0	0	5	5
令和3年シーズン	0	0	3	3
令和4年シーズン	817	314	731	1,862
令和5年シーズン	4,758	4,217	5,198	14,173
6年シーズン平均	1,671	1,321	1,781	4,773

感染性胃腸炎(単位：人)

	東部	中部	西部	県計
平成30年シーズン	2,482	1,769	1,974	6,225
令和元年シーズン	1,734	1,122	1,261	4,117
令和2年シーズン	1,087	622	1,218	2,927
令和3年シーズン	1,727	1,120	1,310	4,157
令和4年シーズン	2,258	1,319	1,335	4,912
令和5年シーズン	2,115	1,225	1,332	4,672
6年シーズン平均	1,901	1,196	1,405	4,502

※当年6月下旬～翌年6月下旬



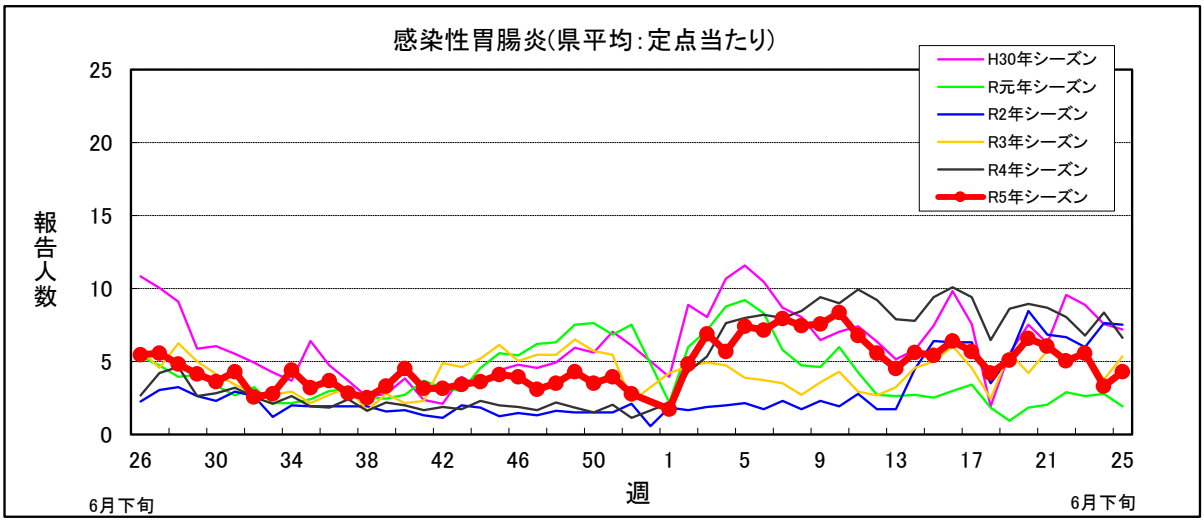


図4 インフルエンザ及び感染性胃腸炎の発生状況

2　全数把握対象疾患

(1) 令和5年の発生状況(P30～31 表 14 参照)

ア 1 類感染症

鳥取県、全国ともに発生はなかった。

イ 2 類感染症

鳥取県では、結核 41 件の報告があった。

全国では、結核 15,377 件の報告であった。

ウ 3 類感染症

鳥取県では、腸管出血性大腸菌感染症 19 件の報告があり、その他の感染症では発生はなかった。

全国では、腸管出血性大腸菌感染症 3,826 件、細菌性赤痢 47 件、腸チフス 39 件、パラチフス 9 件、コレラ 2 件であった。

エ 4 類感染症

鳥取県では、レジオネラ症 11 件、日本紅斑熱 3 件、重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属ＳＦＴＳウイルスであるものに限る。）2 件、Ｅ型肝炎 1 件、つつが虫病 1 件、デング熱 1 件の報告があった。

全国では、レジオネラ症 2,291 件、Ｅ型肝炎 552 件、日本紅斑熱 500 件、つつが虫病 445 件、エムポックス 225 件、デング熱 175 件、重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属ＳＦＴＳウイルスであるものに限る。）134 件、Ａ型肝炎 56 件、レプトスピラ症 49 件、マラリア 36 件等であった。

※令和 5 年 5 月 26 日からサル痘の感染症法上の名称がエムポックスに変更された。

オ 5 類感染症

鳥取県では、梅毒 29 件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 8 件、侵襲性肺炎球菌感染症 8 件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 6 件、急性脳炎（ウエストナイル脳炎等を除く。）4 件、アメーバ赤痢 3 件、後天性免疫不全症候群 3 件、侵襲性インフルエンザ菌感染症 3 件、百日咳 3 件、播種性クリプトコックス症 2 件、ウイルス性肝炎（Ｅ型肝炎及びＡ型肝炎を除く）1 件、急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）1 件、クリプトスポリジウム症 1 件、水痘（入院例に限る。）1 件、麻しん 1 件の報告があった。

全国では、梅毒 15,055 件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 2,113 件、侵襲性肺炎球菌感染症 1,987 件、百日咳 1,000 件、後天性免疫不全症候群 948 件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 939 件、急性脳炎（ウエストナイル脳炎等を除く。）661 件、侵襲性インフルエンザ菌感染症 566 件、アメーバ赤痢 489 件、水痘（入院例に限る。）405 件、ウイルス性肝炎（Ｅ型肝炎及びＡ型肝炎を除く）244 件、播種性クリプトコックス症 173 件、クロイツフェルト・ヤコブ病 170 件、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 115 件、破傷風 109 件等であった。

※令和 5 年 5 月 26 日からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の感染症法上の名称がカルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症に変更された。

カ　新型インフルエンザ等感染症

新型コロナウイルス感染症（病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和２年１月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。）

鳥取県では、31,877 件の報告があった（令和５年５月７日報告分まで）。

※令和５年５月８日から感染症法上の５類に分類され、全数把握対象疾患から定点把握対象疾患に変更された。

全国では、4,571,207 件であった。

※新型コロナウイルス感染症の全国値については、厚生労働省のオープンデータにより集計した（令和５年５月８日公表分まで）。

表14 全数把握対象疾患（年次別/月別報告）

		平成30年		令和元年		令和2年		令和3年		令和4年		令和5年													
		全国	鳥取県	全国	鳥取県	全国	鳥取県	全国	鳥取県	全国	鳥取県	全国	鳥取県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1類感染症	エボラ出血熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	クリミア・コンゴ出血熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	痘そう	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	南米出血熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ペスト	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	マールブルグ病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ラッサ熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2類感染症	急性灰白髄炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	結核	22,448	66	21,672	52	17,786	42	16,299	51	14,798	58	15,377	41	1	2	5	2	5	2	4	5	5	3	6	1
	ジフテリア	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	鳥インフルエンザ（H5N1）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	鳥インフルエンザ（H7N9）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3類感染症	コレラ	4	—	5	—	1	—	—	—	1	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	細菌性赤痢	268	—	140	—	87	—	7	—	16	—	47	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	腸管出血性大腸菌感染症	3,854	22	3,744	24	3,094	26	3,243	10	3,370	14	3,826	19	—	—	—	—	—	1	—	5	9	2	—	2
	腸チフス	35	—	37	—	21	—	4	—	16	—	39	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	パラチフス	23	—	21	—	7	—	—	—	10	—	9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4類感染症	E型肝炎	446	2	493	2	454	1	460	—	435	—	552	1	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—
	ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎含む）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	A型肝炎	926	3	425	—	120	1	71	—	69	—	56	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	エキノコックス症	19	—	28	—	24	—	35	—	28	—	14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	エムポックス	—	—	—	—	—	—	—	—	7	—	225	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	黄熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	オウム病	6	—	13	—	7	—	9	—	12	—	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	オムスク出血熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	回帰熱	6	—	7	—	15	—	10	—	25	—	23	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	キャサヌル森林病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	Q熱	3	—	2	—	—	—	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	狂犬病	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	コクシジオイデス症	2	—	2	—	6	—	—	—	2	—	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ジカウイルス感染症	—	—	3	—	1	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。）	77	—	101	—	78	2	110	1	118	1	134	2	—	—	1	—	—	—	—	—	1	—	—	—
	腎症候性出血熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	西部ウマ脳炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ダニ媒介脳炎	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	炭疽	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	チクングニア熱	4	—	49	—	3	—	—	—	5	—	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	つつが虫病	456	5	404	3	538	3	544	4	492	2	445	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—
	デング熱	201	1	461	2	45	—	8	—	98	—	175	1	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—
	東部ウマ脳炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	鳥インフルエンザ（鳥インフルエンザ（H5N1及びH7N9）を除く。）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ニパウイルス感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	日本紅斑熱	305	1	318	—	422	10	490	9	457	9	500	3	—	—	—	—	1	—	—	—	1	—	1	—
	日本脳炎	—	—	9	—	5	—	3	—	5	—	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ハンタウイルス肺症候群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

表14 全数把握対象疾患（年次別/月別報告）

		平成30年		令和元年		令和2年		令和3年		令和4年		令和5年													
		全国	鳥取県	全国	鳥取県	全国	鳥取県	全国	鳥取県	全国	鳥取県	全国	鳥取県	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
4類感染症	Bウイルス病	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	鼻疽	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ブルセラ症	3	—	2	—	2	—	1	—	1	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ベネズエラウマ脳炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ヘンドラウイルス感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	発しんチフス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ボツリヌス症	2	—	3	—	4	—	5	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	マラリア	50	—	57	1	21	—	30	—	31	1	36	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	野兎病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ライム病	13	—	17	—	27	—	23	—	14	—	28	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	リッサウイルス感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	リフトバレー熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	類鼻疽	2	—	2	—	1	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	レジオネラ症	2,142	18	2,316	10	2,059	12	2,133	3	2,143	13	2,291	11	1	—	—	1	2	2	1	—	1	1	1	1
	レプトスピラ症	32	1	32	—	17	—	34	—	38	—	49	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ロッキー山紅斑熱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5類感染症	アメーバ赤痢	843	6	853	6	611	4	537	1	533	1	489	3	—	—	1	—	—	1	—	—	—	1	—	—
	ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）	277	—	331	1	246	1	203	1	211	—	244	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2,289	8	2,333	27	1,956	7	2,066	6	2,015	3	2,113	8	—	2	1	—	—	—	—	—	—	1	4	—
	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	141	—	78	—	34	—	25	—	41	—	55	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—
	急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）	679	5	959	8	491	8	338	8	399	3	661	4	1	—	—	—	2	—	—	1	—	—	—	—
	クリプトスポリジウム症	25	—	19	—	6	—	5	—	7	—	16	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	クロイツフェルト・ヤコブ病	221	3	193	2	157	—	179	—	172	—	170	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	694	7	894	6	718	5	622	3	708	3	939	6	—	1	—	—	—	1	1	1	1	—	—	1
	後天性免疫不全症候群	1,301	2	1,231	4	1,094	—	1,053	2	893	1	948	3	—	—	2	—	1	—	—	—	—	—	—	—
	ジアルジア症	68	—	53	1	28	—	32	1	32	1	39	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	488	3	543	2	253	—	194	—	211	3	566	3	—	—	—	—	—	—	2	—	—	1	—	—
	侵襲性髄膜炎菌感染症	37	—	48	—	14	1	1	—	8	—	21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	侵襲性肺炎球菌感染症	3,328	13	3,344	21	1,655	12	1,405	8	1,347	10	1,987	8	1	1	1	—	—	2	2	—	—	1	—	—
	水痘（入院例に限る。）	466	2	492	2	362	7	301	2	327	1	405	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	先天性風しん症候群	—	—	4	—	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	梅毒	7,007	28	6,642	24	5,867	32	7,978	15	13,221	16	15,055	29	1	6	1	4	3	4	1	1	4	1	2	1
	播種性クリプトコックス症	182	3	156	2	152	3	163	1	159	2	173	2	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	破傷風	134	5	126	2	104	—	93	—	96	—	109	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	80	—	80	—	136	—	124	—	133	—	115	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	百日咳	12,115	61	16,845	47	2,819	12	707	2	491	3	1,000	3	—	—	—	1	1	1	—	—	—	—	—	—
	風しん	2,941	2	2,298	1	101	—	12	—	15	—	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	麻しん	279	—	744	3	10	—	6	—	6	—	28	1	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	24	—	24	—	10	1	6	1	13	—	15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
新型インフルエンザ等感染症	新型インフルエンザ																								
	再興型インフルエンザ																								
	新型コロナウイルス感染症							1,492,874	1,550	27,439,049	110,425	4,571,207	31,877	22,907	4,687	2,336	1,483	464							
	再興型コロナウイルス感染症																								
指定感染症	新型コロナウイルス感染症					234,109	119																		

※新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の全数把握対象による報告数については、令和5年5月7日までの届け出分である。
※新型コロナウイルス感染症の全国値については、厚生労働省のオープンデータにより集計した（令和5年5月8日公表分まで）。
※令和5年5月26日からサル痘及びカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の感染症法上の名称がエムポックス及びカルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症に変更された。。

(2) 梅毒の発生状況(図 5 及び 6 参照)

平成 23 年以降増加のみられた全国の梅毒報告数について、令和 3 年以降顕著に増加がみられている。これを踏まえ、鳥取県における過去 10 年の年別報告数の推移、年齢別報告数についてまとめた。

ア 年別報告数の推移

全国の梅毒報告数は令和 3 年以降急増しており、令和 5 年の報告数は 15,055 件であった。鳥取県においては、令和 2 年までは増加していたが、令和 3 年、4 年は届出数が減少し、令和 5 年は再び増加した。

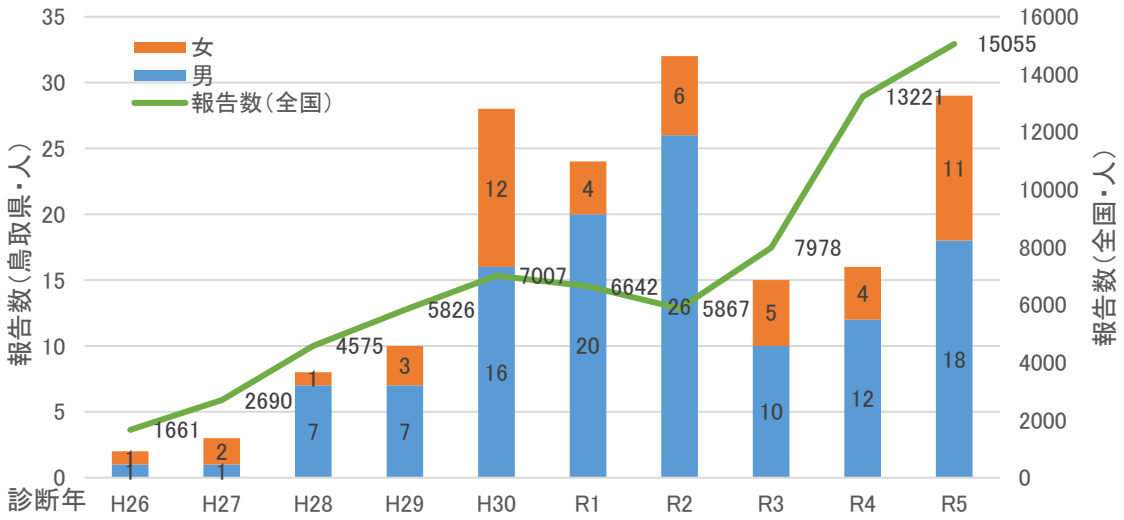


図 5 全国及び鳥取県内の梅毒年別報告数の推移

イ 年齢別報告数(令和 5 年)

男性では 20 代から 70 歳以上まで全ての年齢層で報告があったが、女性では 70 代以上の報告はなかった。男性は 30 代での報告が多く、次いで 40 代、60 代、70 歳以上の報告であった。女性は 20 代での報告が多く、次いで 30 代であった。

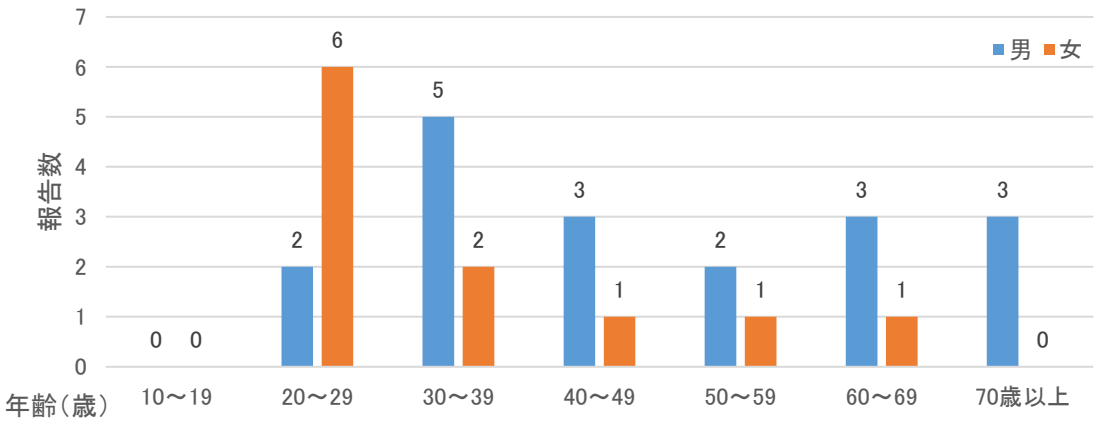


図 6 令和 5 年の鳥取県内の年齢別・性別報告数

3　新型コロナウイルス感染症の発生状況及びゲノム解析

(1)　新型コロナウイルス感染症の発生状況（表15、図7参照）

新型コロナウイルス感染症は、令和5年5月7日までは感染法上の新型インフルエンザ等感染症（2類相当）の全数把握対象疾患であったが、5月8日以降は5類に分類され定点把握対象疾患に変更された。令和2年4月に県内で初めての新型コロナウイルス感染症患者が確認されて以降、新規感染者数の増減を繰り返し、その波は徐々に低くなってきた。

令和5年は、5月7日までは31,877人、5月8日以降は定点医療機関から8,749人の患者報告があった。月別では夏期及び冬期に患者数が増加する傾向にあった。

表15 新型コロナウイルス感染症の発生状況

新型コロナウイルス感染症（単位：人）				
	東部	中部	西部	県計
令和2年	50	12	57	119
令和3年	712	182	656	1,550
令和4年	45,229	17,664	47,532	110,425
令和5年（5月7日まで）	12,102	6,782	12,993	31,877
令和5年（5月8日以降）	2,931	2,093	3,725	8,749

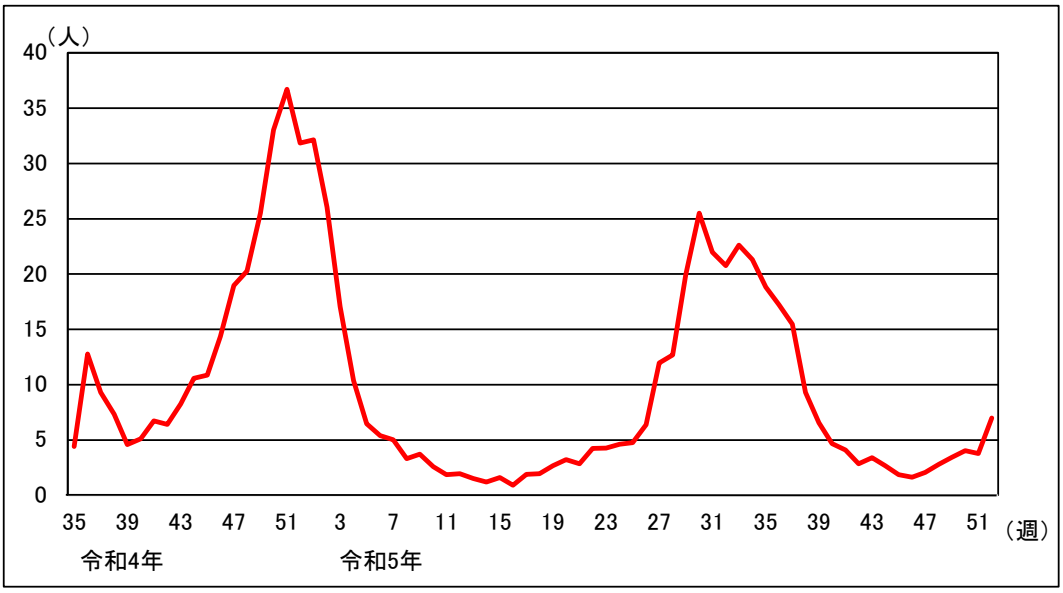


図7 鳥取県内の新型コロナウイルス感染症定点当たり報告数

※令和5年第19週以前の数値は、定点医療機関での報告数より算出した。

(2) 新型コロナウイルスゲノム解析結果（表 16、図 8 参照）

新型コロナウイルスについて、陽性検体のうち 2,134 件をゲノム解析した。年間を通じてオミクロン系統の株の流行が続いたが、月別に見ると 1 月と 2 月は BA.5 系統が主系統で、3 月は BN.1 系統、4 月は BF.7 系統が主系統となった。5 月から 8 月までは XBB 組換体が主系統となり、9 月以降は XBB 組換体の子孫系統である EG.5 系統が主系統となった。

表 16 新型コロナウイルスゲノム解析結果の推移（検出割合上位 5 系統）

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
令和 5 年 1 月	BA.5(75.0%)	BN.1(16.7%)	BF.7(8.3%)	−	−
2 月	BA.5 (42.3%)	BN.1(28.2%)	BQ.1(12.7%)	BF.7(5.6%)	BA.2(4.2%)
3 月	BN.1(36.8%)	BF.7(24.5%)	BA.5(20.5%)	XBB(6.4%)	BA.2(5.0%)
4 月	BF.7(39.8%)	XBB(25.4%)	BN.1(11.9%)	BA.5(10.2%)	BA.2(8.5%)
5 月	XBB(57.1%)	BF.7(15.9%)	BA.2(11.1%)	組換体(XBB 以外)(6.3%)	BA.2.75(3.2%) BA.5(3.2%) BQ.1(3.2%)
6 月	XBB(71.5%)	EG.5(7.9%)	BN.1(5.3%)	BF.7(4.6%)	BA.2.75 (4.0%)
7 月	XBB(62.5%)	EG.5(20.2%)	BN.1(5.9%)	BF.7(4.5%)	GK.1(2.5%)
8 月	XBB(52.7%)	EG.5(30.9%)	GK.1 (6.5%)	BA.2.75 (6.2%)	BN.1(2.5%)
9 月	EG.5(58.7%)	XBB(30.0%)	GK.1(5.7%)	BA.2.75(3.5%)	BF.7(0.9%)
10 月	EG.5(51.7%)	XBB(16.6%) GK.1(16.6%)	−	BF.7(9.9%)	BA.2.75 (2.0%)
11 月	EG.5(58.6%)	GK.1(17.1%)	JN.1(7.2%)	BA.2.86(6.3%)	BF.7(5.4%)
12 月	EG.5(44.6%)	GK.1(20.9%)	BA.2.86(18.0%)	JN.1(12.2%)	BF.7(2.2%) XBB(2.2%)

※BA.2 系統は BA.2.86,2.75 系統を除く

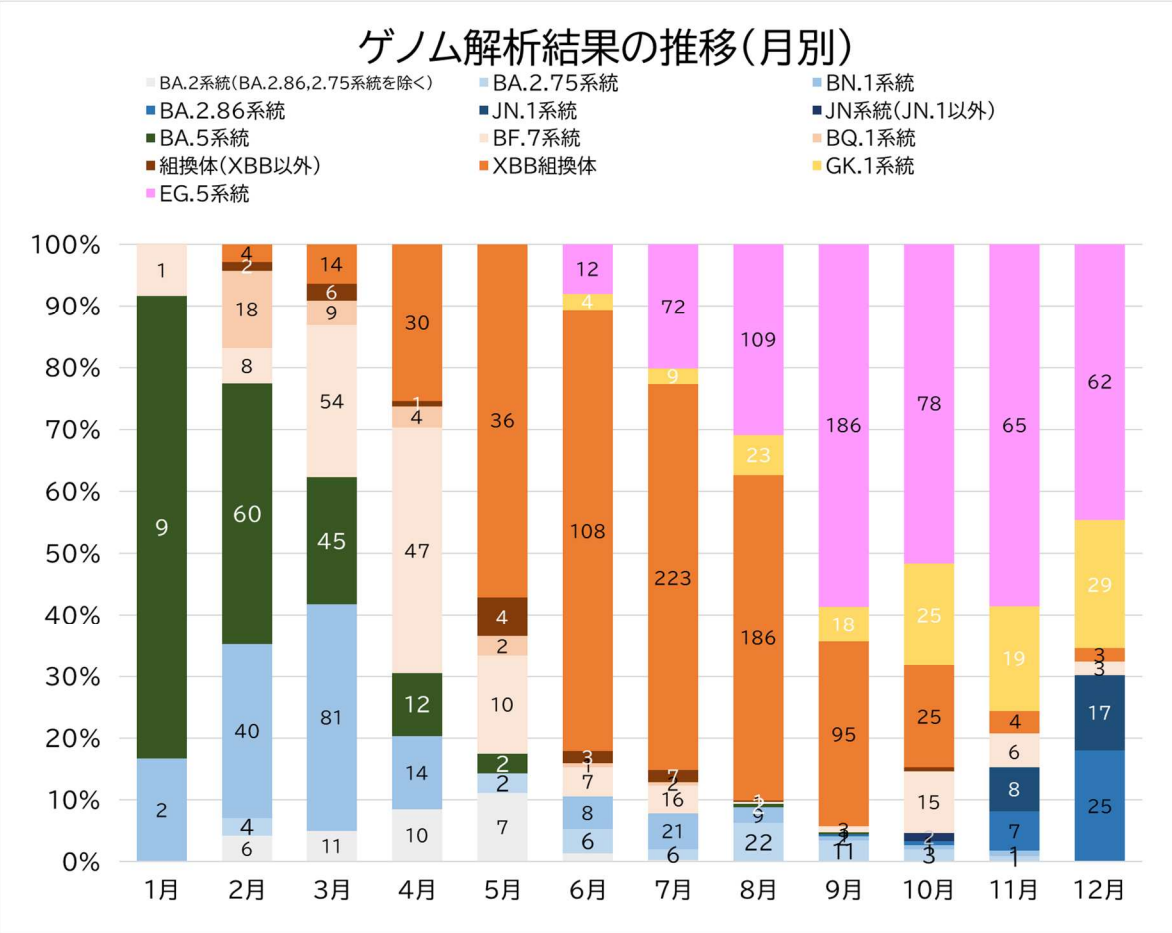


図 8 新型コロナウイルスゲノム解析結果の推移

4　鳥取県内における感染症集団発生件数

鳥取県内における感染症集団発生件数（表 17 参照）

令和 5 年の鳥取県での感染症集団発生は、感染性胃腸炎 49 件、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎 1 件、ＲＳウイルス感染症 11 件、咽頭結膜熱 2 件、手足口病 4 件、ヘルパンギーナ 3 件報告があった。このうち、感染性胃腸炎は対前年 27 件の増加、ＲＳウイルス感染症は対前年 11 件の減少であった。

感染性胃腸炎は 1 月から 12 月、ＲＳウイルス感染症は 5 月から 7 月にかけて集団発生報告があった。また、感染性胃腸炎はノロウイルスによるものが 21 件、ロタウイルスによるものが 1 件、その他（原因不明も含む）が 27 件であった。

インフルエンザによる臨時休業は 425 件、集団発生は 155 件であり、新型コロナウイルス感染症の感染対策が効果をあげていた前年度と比べて増加した。

新型コロナウイルス感染症は、5 月の 5 類移行前に 171 件、5 月の 5 類移行後 229 件集団発生報告があり、インフルエンザに次ぐ件数となった。

表 17　鳥取県内における感染症集団発生件数

令和5年12月31日 現在
※(　)は前年数値

疾病名		1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		計		
																										12月時点		年間
1. 感染性胃腸炎		4	(6)	9	(2)	7	(1)	14	(9)	5		3	(4)	1		1		1		1		1		2		49	(22)	(22)
再掲	ノロウイルス	4	(6)	6		6		2	(6)			1						1				1				21	(12)	(12)
再掲	ロタウイルス			1																						1	(0)	(0)
再掲	サポウイルス																									0	(0)	(0)
再掲	その他(原因不明も含む)			2	(2)	1	(1)	12	(3)	5		2	(4)	1		1				1				2		27	(10)	(10)
2. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎												1			(1)		(1)		(2)		(1)					1	(5)	(5)
3. RSウイルス感染症										2		1		8	(3)		(5)		(9)		(3)		(2)			11	(22)	(22)
4. 咽頭結膜熱					(1)					1														1		2	(1)	(1)
5. 手足口病			(2)		(1)							1	(2)	1		1		1								4	(5)	(5)
6. ヘルパンギーナ												3														3	(0)	(0)
7. 水痘																										0	(0)	(0)
8. 流行性角結膜炎																										0	(0)	(0)
9. インフルエンザ	臨時休業	4		4		6				3		1		1				38		##		##		100		425	(0)	(0)
	集団発生	2		7		10		4		4						2		6		21		48		51		155	(0)	(0)
10. 新型コロナウイルス感染症(5類移行前)		90	(22)	43	(35)	20	(18)	15	(26)	3	(26)		(13)		(92)		(119)		(38)		(43)		(82)		(184)	171	(720)	(720)
11. 新型コロナウイルス感染症(5類移行後(5月8日以降))										3		16		46		60		59		11		17		17		229	－	－

5　病原体検査状況

(1) 病原体検査状況

ア 疾病別、月別検体受入状況(P41 表 18 参照)

検体受入件数 7,594 件（全数把握対象疾患 4,760 件、定点把握対象疾患 2,833 件、その他 1 件）で、全数把握対象疾病は多い順に新型コロナウイルス感染症 4,476 件、腸管出血性大腸菌感染症 85 件、麻しん 69 件、風しん 69 件、日本紅斑熱 21 件、重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属ＳＦＴＳウイルスであるものに限る。）14 件等であった。

新型コロナウイルス感染症については、各保健所から民間検査機関への委託が進んだことから、受入検体数は徐々に減少した。感染症法上の位置付けが 2 類相当から 5 類感染症になった 5 月以降は定点把握対象疾病に移行してゲノム解析が主となり、患者数の多かった 8 月には 949 件を受け入れた。

他の全数把握対象疾病については、腸管出血性大腸菌感染症の検体は 6 月から 12 月まで検体の搬入があったが、8 月と 9 月にそれぞれ 31 件と 43 件と集中した。

ダニ媒介感染症である日本紅斑熱の検体は 2 月から 11 月、重症熱性血小板減少症候群（ＳＦＴＳ）の検体は 3 月から 11 月とマダニの活動が盛んな春から秋にかけて搬入が相次いだが、5 月と 9 月に多かった。

定点把握対象疾病については、感染性胃腸炎の検体の受け入れが 1 月から 12 月まで毎月あった。インフルエンザは冬期と春期を中心に検体を受け入れた。

イ 疾病別病原体検出状況(P42 表 19-a、P43 表 19-b 参照)

腸管出血性大腸菌感染症、日本紅斑熱等の 16 疾病 16 種類 33 型（血清型、遺伝子型、遺伝子型および遺伝子群を含む）のウイルス、リケッチア及び細菌が検出された。検出されたものは以下のとおりである。

（ア）腸管出血性大腸菌感染症：O157 が 3 件検出された。
（イ）日本紅斑熱：日本紅斑熱リケッチアが 3 件検出された。
（ウ）つつが虫病：つつが虫病リケッチアが2 件検出された。
（エ）重症熱性血小板減少症候群（SFTS）：ＳＦＴＳウイルスが 2 件検出された。
（オ）デング熱：デングウイルスが 1 件検出された。
（カ）急性脳炎（ウエストナイル脳炎等を除く。）：アデノウイルスが 1 件検出された。
（キ）麻しん：麻しんウイルスが 1 件検出された。
（ク）新型コロナウイルス感染症：新型コロナウイルスが 271 件検出された。
（ケ）咽頭結膜熱：アデノウイルス 2 型が 1 件検出された。
（コ）感染性胃腸炎（P44 図 9 参照）：アデノウイルス、エンテロウイルス、アストロウイルス、ノロウイルス、サポウイルス、黄色ブドウ球菌が検出された。エンテロウイルスが 12 件と最も多く、次いでアデノウイルスが 9 件、サポウイルスが 7 件検出された。
（サ）感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）：Ａ群ロタウイルスが 1 件検出された。
（シ）手足口病（P44 図 10 参照）：エンテロウイルス型別不能が 3 件、コクサッキーウイルスＡ6 型が 1 件、エンテロウイルスＡ71 型が 1 件検出された。

（ス）ヘルパンギーナ（P45 図 11 参照）：コクサッキーウイルスＢ5 型が 3 件、エンテロウイルス型別不能が 1 件、コクサッキーウイルスA2 型が 1 件検出された。
（セ）インフルエンザ（インフルエンザ様疾患も含む）：ＡH3 型が 17 件、Ａ（H1 N1）2009 型が 5 件検出された。
（ソ）流行性角結膜炎：アデノウイルス 9 件、ヘルペスウイルス 1 件が検出された。そのうち、アデノウイルス 3 型と 56 型が 3 件ずつ検出された。
（タ）無菌性髄膜炎：エンテロウイルス型別不能が 1 件、コクサッキーウイルスＡ4 型が 1 件検出された。

表18　疾病別月別検体受入状況（令和5年1月～12月）

	臨床診断名（疑いも含む）	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
全数把握対象疾患	腸管出血性大腸菌感染症						2		31	43	6		3	85
	日本紅斑熱		1	1	2	7	2	1	1	3	1	2		21
	つつが虫病		2		2	2				2				8
	重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。）			1		4	2	1	1	2	1	2		14
	デング熱						1							1
	チクングニア熱						1							1
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症		1	2							2	8		13
	急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）					3								3
	麻しん		3		3	6	34	3	5	4	5		6	69
	風しん		3		3	6	34	3	5	4	5		6	69
	新型コロナウイルス感染症	3,921	478	31	46									4,476
小　計		3,921	488	35	56	28	76	8	43	58	20	12	15	4,760
定点把握対象疾患	咽頭結膜熱									1			1	2
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎									1				1
	感染性胃腸炎	6	6	6	2	6	6	5	4	3	4	4	6	58
	感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）			1										1
	手足口病									2	1	2		5
	ヘルパンギーナ						1	2	2		1			6
	流行性耳下腺炎					1			1					2
	インフルエンザ	4	5	4		2		2	1	1	5	7	8	39
	急性出血性結膜炎													0
	流行性角結膜炎	1	1				1		1	1	4	2	1	12
	細菌性髄膜炎（髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。）													0
	無菌性髄膜炎					1		2	2					5
	伝染性紅斑													0
	RSウイルス感染症													0
	マイコプラズマ肺炎													0
	水痘													0
	突発性発疹													0
	新型コロナウイルス感染症※					49	173	552	949	517	208	127	127	2702
小　計		11	12	11	2	59	181	563	960	526	223	142	143	2833
その他	小児原因不明肝炎						1							1
小　計		0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
計		3,932	500	46	58	87	258	571	1,003	584	243	154	158	7,594

※新型コロナウイルスは5月からの5類移行により定点把握対象とした

表19-a　全数把握対象疾患 疾病別病原体検出状況（令和5年1月～12月）

		腸管出血性大腸菌O103	腸管出血性大腸菌O146	腸管出血性大腸菌O157	日本紅斑熱リケッチア	つつが虫病リケッチア	SFTSウイルス	デングウイルス	チクングニアウイルス	カルバペネマーゼ遺伝子（IMP、NDM、KPC、OXA-48）	アデノウイルス1型	麻しんウイルス	風しんウイルス	新型コロナウイルス	計
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症			3											3
4類感染症	日本紅斑熱				3										3
	つつが虫病					2									2
	重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限						2								2
	デング熱							1							1
	チクングニア熱														0
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症														0
	急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）										1				1
	麻しん											1			1
	風しん														0
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症													271	271
計		0	0	3	3	2	2		0	0		1		271	284

表19-b　定点把握対象疾患　疾病別病原体検出状況（令和5年1月～12月）

		病原体の種類																																															
		アデノウイルス													インフルエンザウイルス				エンテロウイルス													RSウイルス									溶連菌		ヘルペスウイルス									
		アデノウイルス　型別不能	アデノウイルス　1型	アデノウイルス　2型	アデノウイルス　3型	アデノウイルス　4型	アデノウイルス　5型	アデノウイルス　7型	アデノウイルス　8型	アデノウイルス　37型	アデノウイルス　54型	アデノウイルス　56型	アデノウイルス　64型	アデノウイルス　40／41型	インフルエンザウイルスAH3	インフルエンザウイルスA（H1N1）2009	インフルエンザウイルスB（ビクトリア）	インフルエンザウイルスB（山形）	エンテロウイルス　型別不能	エコーウイルス　3型	エコーウイルス　18型	コクサッキーウイルス　A2型	コクサッキーウイルス　A4型	コクサッキーウイルス　A5型	コクサッキーウイルス　A6型	コクサッキーウイルス　A9型	コクサッキーウイルス　A10型	コクサッキーウイルス　A16型	コクサッキーウイルス　B5型	エンテロウイルス　A71型	ライノウイルス	RSウイルス　A亜型	RSウイルス　B亜型	A群ロタウイルス	アストロウイルス	ノロウイルス　GⅠ	ノロウイルス　GⅡ	サポウイルス	黄色ブドウ球菌	A群溶血性レンサ球菌　T型別不能	A群溶血性レンサ球菌　T1型	ヘルペスウイルス　1／2型	ヘルペスウイルス3	ヘルペスウイルス4	ヘルペスウイルス5	ヘルペスウイルス6	ヘルペスウイルス7	パルボウイルスB19	ムンプスウイルス	計
病原体定点把握対象疾病	咽頭結膜熱			1																																													1
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎																																																0
	感染性胃腸炎	2		3	1		1							2					3	1		2				2			3	1					5		4	7	3											40
	感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）																																	1															1
	手足口病																		3						1					1																				5
	ヘルパンギーナ																		1			1							3																					5
	流行性耳下腺炎																																											1		1	2			4
	インフルエンザ														16	5																																		21
	インフルエンザ様疾患														1																																			1
	急性出血性結膜炎																																																	0
	流行性角結膜炎	1			3					1	1	3																																			1			10
	細菌性髄膜炎																																																	0
	無菌性髄膜炎																		1				1																											2
	伝染性紅斑																																																	0
	RSウイルス感染症																																																	0
	突発性発疹																																																	0
	水痘																																																	0
計		3	0	4	4	0	1	0	0	1	1	3	0	2	17	5	0	0	8	1	0	3	1	0	1	2	0	0	6	2	0	0	0	1	5	0	4	7	3	0	0	0	0	1	0	1	3	0	0	90

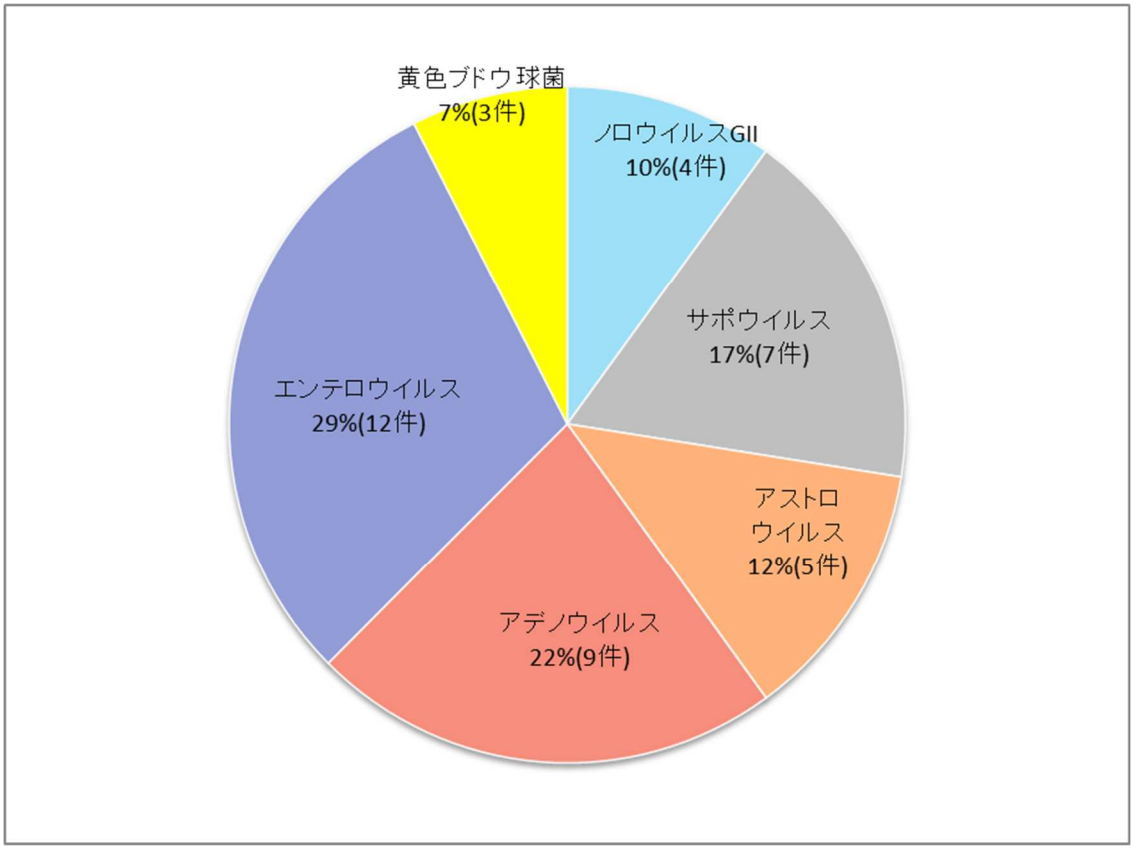
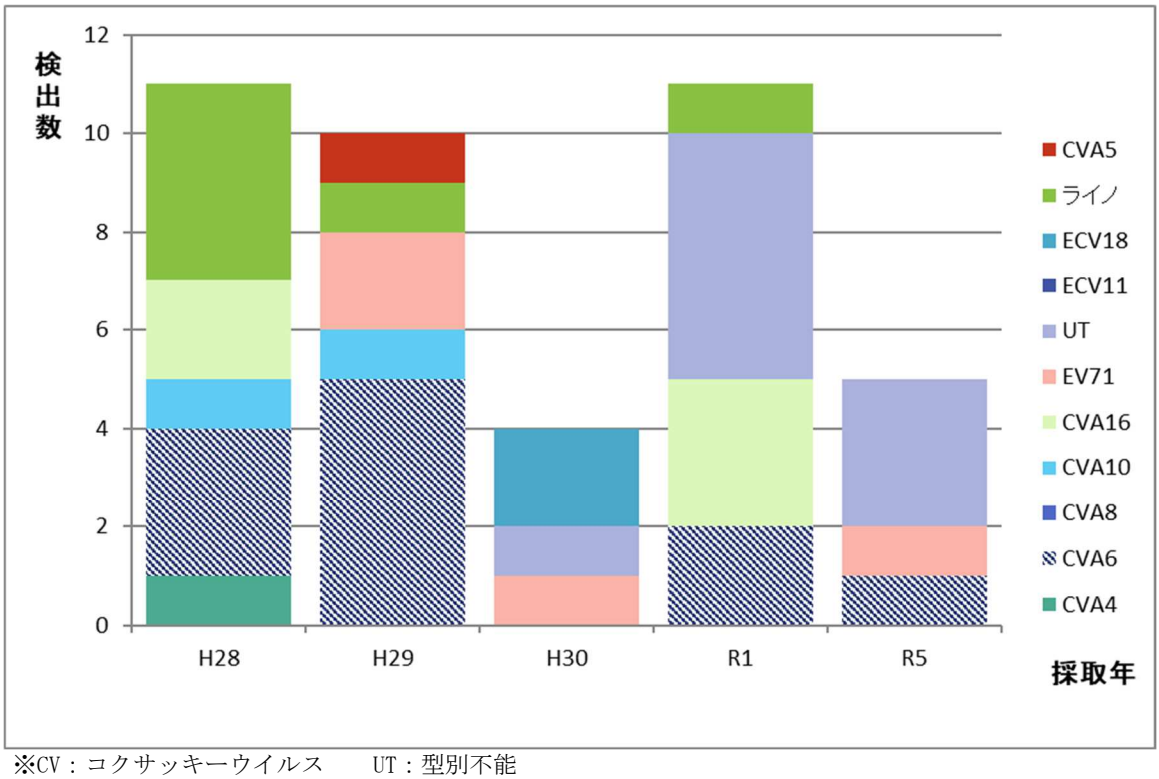
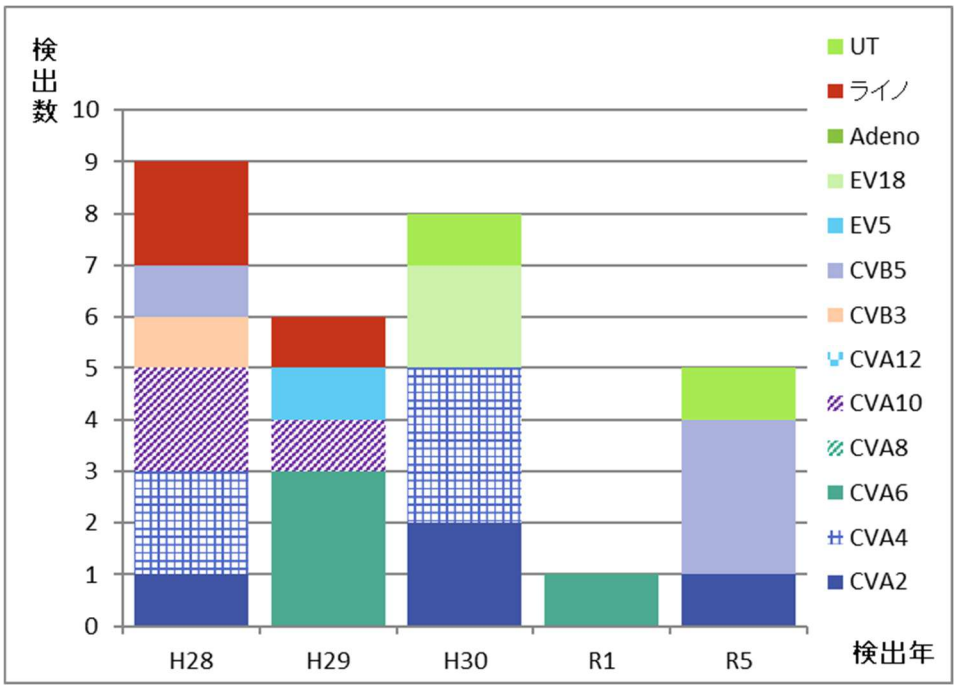


図 9　感染性胃腸炎診断の便検体から検出されたウイルスの割合



※CV：コクサッキーウイルス　　UT：型別不能

図 10　年別手足口病と診断された患者の咽頭ぬぐい液検体からの検出ウイルス



※CV：コクサッキーウイルス　　UT：型別不能

図 11　年別ヘルパンギーナと診断された患者の咽頭ぬぐい液検体からの検出ウイルス

(2) 全数把握対象疾患

ア ウイルス検査状況

（ア）ＳＦＴＳウイルス

保健所の積極的疫学調査により 14 件の検査を実施し、2 件（2 名）からＳＦＴＳウイルスが検出された。

（イ）デングウイルス

保健所の積極的疫学調査により 1 件の検査を実施し、デングウイルスが検出された。

（ウ）チクングニアウイルス

保健所の積極的疫学調査により 1 件の検査を実施したが、チクングニアウイルスは検出されなかった。

（エ）アデノウイルス

保健所の積極的疫学調査により急性脳炎（ウエストナイル脳炎等を除く。）の原因究明の一環として 3 件（1 名）の検査を実施し、1 件からアデノウイルス 1 型が検出された。

（オ）麻しんウイルス

保健所の積極的疫学調査により 69 件の検査を実施し、3 件（1 名）から麻しんウイルスが検出された。

（カ）新型コロナウイルス

保健所の積極的疫学調査により 4,476 件の検査を実施し、271 件から新型コロナウイルスが検出された。

イ リケッチア検査状況

（ア）日本紅斑熱

保健所の積極的疫学調査により 21 件の検査を実施し、5 件（3 名）から日本紅斑熱リケッチアが検出された。

（イ）つつが虫病

保健所の積極的疫学調査により 8 件の検査を実施し、2 件（1 名）からつつが虫病リケッチアが検出された。

ウ 細菌検査状況

（ア）腸管出血性大腸菌感染症

県内で腸管出血性大腸菌感染症患者（健康保菌者を含む）は 19 名発生した。当所では、患者（陰性化確認）と患者の接触者（結果陽性の場合の陰性化確認も含む）について 85 検体（便）の検査を実施した。その結果、3 件の腸管出血性大腸菌を分離・同定し、これらの血清型はＯ157 であった。また、当所で分離・同定された菌株 3 株について毒素遺伝子を検査したところ、ＶＴ1 が 2 株、ＶＴ2 が 1 株検出された（P47 表 20 参照）。

（イ）カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症

保健所の積極的疫学調査により 13 件について検査を実施したところ、いずれも 4 つの遺伝子型（ＩＭＰ型、ＮＤＭ型、ＫＰＣ型、ＯＸＡ－48 型）に該当しなかった。

表 20　腸管出血性大腸菌感染症発生状況（令和 5 年 1 月～12 月）

No.	検出月日	当所検査	居住地域	性別	年齢※	症状の有無	O血清型	Vero毒素型
1	6月28日	—	西部	女	10歳代	有	157	VT2
2	8月4日	—	東部	女	50歳代	有	157	VT1・VT2
3	8月7日	—	中部	男	50歳代	有	157	VT1・VT2
4	8月9日	—	中部	男	20歳代	有	157	不明
5	8月11日	—	西部	女	10歳代	有	157	VT1・VT2
6	8月21日	—	東部	男	20歳代	有	157	VT1
7	9月5日	—	西部	女	幼児	有	157	VT1
8	9月14日	—	中部	男	幼児	有	157	VT1
9	9月16日	分離・同定	中部	女	30歳代	有	157	VT1
10	9月18日	分離・同定	中部	男	小学生	無	157	VT1
11	9月27日	—	西部	女	40歳代	有	157	VT2
12	9月28日	—	中部	男	80歳代	有	157	VT1・VT2
13	9月28日	—	中部	男	20歳代	有	157	VT1
14	9月29日	分離・同定	西部	男	40歳代	無	157	VT2
15	9月29日	—	西部	女	30歳代	無	157	VT1
16	10月12日	—	西部	女	20歳代	無	26	VT1
17	10月20日	—	西部	女	40歳代	無	157	VT1
18	12月4日	—	西部	女	90歳代	有	157	VT1・VT2
19	12月14日	—	東部	男	40歳代	無	115	VT1

※表中の着色部分はそれぞれ同一事例を示す。それ以外は個別事例

※幼児：1 歳以上の未就学児

(3) 定点把握対象疾患(P49 表 21 参照)

ア ウイルス検出状況

(ア) アデノウイルスは、2 型と 3 型が各 4 件、56 型が 3 件等計 19 件検出された(P50 図 12 参照)。

(イ) 2022/23 シーズン(2022 年 9 月 5 日～2023 年 9 月 3 日)のインフルエンザウイルスは、A(H1N1)2009 型が 1 件、AH3 型が 3 件検出された。B 型は検出されなかった (P50 図 13-a,P51 図 14 参照)。
2023/24 シーズン(2023 年 9 月 4 日～2024 年 9 月 1 日)のインフルエンザウイルスは、AH3 型が主に流行した(P51 図 13-b 参照)。
2023/24 シーズンにはAH3 型が 14 件、A(H1N1)2009 型が 8 件、BVictoria 型が 4 件検出された(P51 図 14 参照)。

(ウ) RS ウイルス、ライノウイルス、ムンプスウイルスは検出されなかった。

(エ) ノロウイルスは 4 件検出された。遺伝子群はすべて GⅡであった。

(オ) アストロウイルスは 5 件検出された。

(カ) パルボウイルス B19 は検出されなかった。

(キ) ヘルペスウイルスは、ヘルペスウイルス 7 が 3 件、ヘルペスウイルス 4 と 6 がそれぞれ 1 件検出された。

(ク) エンテロウイルスは、7 月に最も多く検出された。型別では、コクサッキーウイルス B5 型 6 件が多く検出された(P52 図 15 参照)。

(ケ) サポウイルスは、5 月、10 月、11 月、12 月に計 7 件検出された(P52 図 16 参照)。

イ 細菌検出状況

(ア) 黄色ブドウ球菌が 3 件検出された。

(イ) A 群溶血性レンサ球菌は検出されなかった。

表21　定点把握対象疾患　月別ウイルス等検出状況（令和5年1月～12月）

検出病原体	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
アデノ　1型													0
アデノ　2型						1	2		1				4
アデノ　3型									2		1	1	4
アデノ　4型													0
アデノ　5型					1								1
アデノ　7型													0
アデノ　8型													0
アデノ　37型										1			1
アデノ　40/41型											2		2
アデノ　54型					1								1
アデノ　56型									2	1			3
アデノ　64型													0
アデノ　型別不能					1			1		1			3
インフルエンザ　AH3						1	1	1		4	6	4	17
インフルエンザ　A(H1N1)pdm09				1					1		1	2	5
インフルエンザ　B　Victoria系統													0
インフルエンザ　B　Yamagata系統													0
インフルエンザ　B　系統不明													0
コクサッキー　A2型					2		1						3
コクサッキー　A4型							1						1
コクサッキー　A5型													0
コクサッキー　A6型										1			1
コクサッキー　A9型											1	1	2
コクサッキー　A10型													0
コクサッキー　A16型													0
コクサッキー　B5型					1	4	1						6
エコー　3型											1		1
エコー　5型													0
エコー　6型													0
エコー　11型													0
エコー　18型													0
エンテロ　A71型								1		1			2
エンテロ　型別不能							2	2	3			1	8
その他のエンテロウイルス													0
ライノ													0
ムンプス													0
パルボウイルスB19													0
RS　A亜型													0
RS　B亜型													0
A群ロタ					1								1
C群ロタ					1								1
アストロ					3	2							5
ノロ　GⅠ													0
ノロ　GⅡ				3	1								4
サポ　型不明					2							1	3
サポ　GⅠ型										2	1		3
サポ　GⅤ型											1		1
ヘルペス　3													0
ヘルペス　4							1						1
ヘルペス　5													0
ヘルペス　6							1						1
ヘルペス　7				1			2						3
A群レンサ球菌													0
黄色ブドウ球菌				1			1			1			3

※新型コロナウイルス検査対応のため、1月から3月は病原体定点からの発生動向調査検体の受入を中止した。

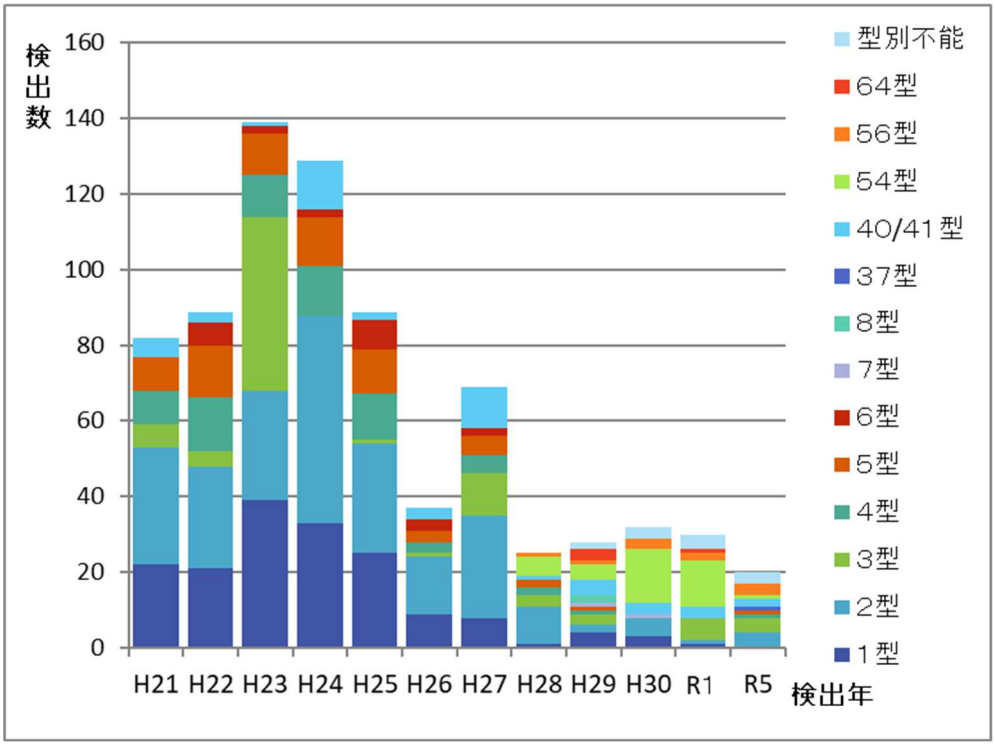


図 12　年別型別　アデノウイルス検出状況

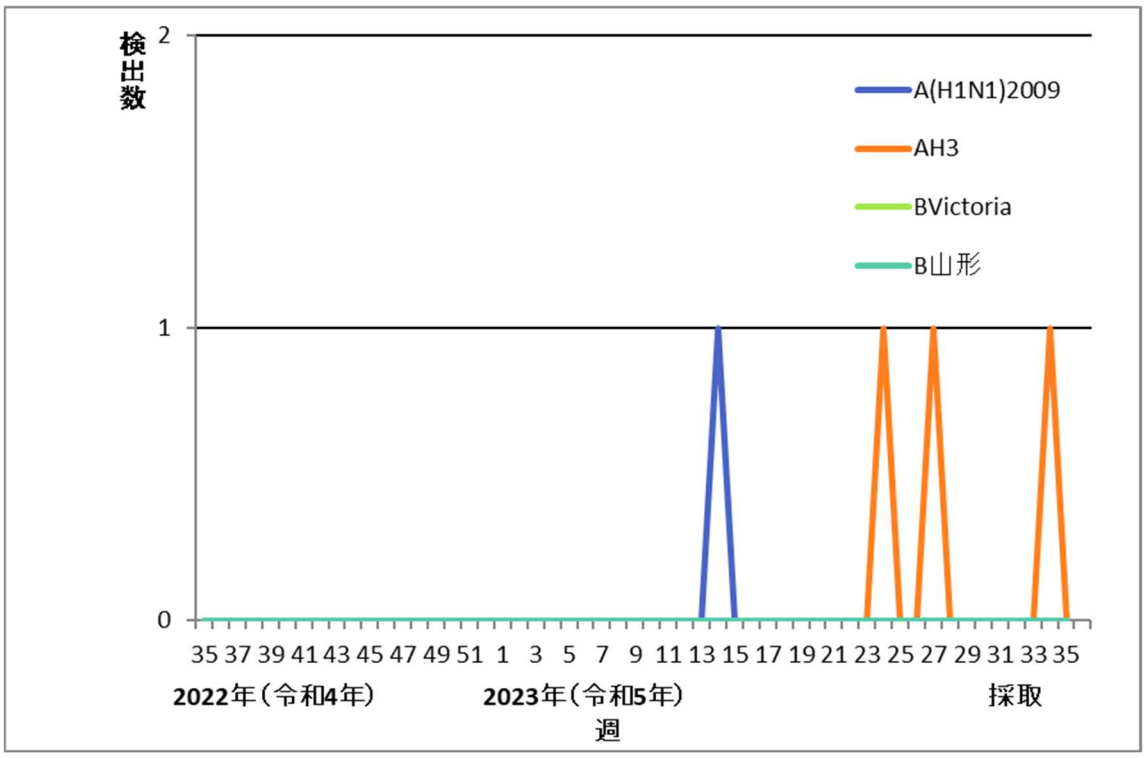


図 13-a　2022/23 シーズン　インフルエンザウイルス検出状況

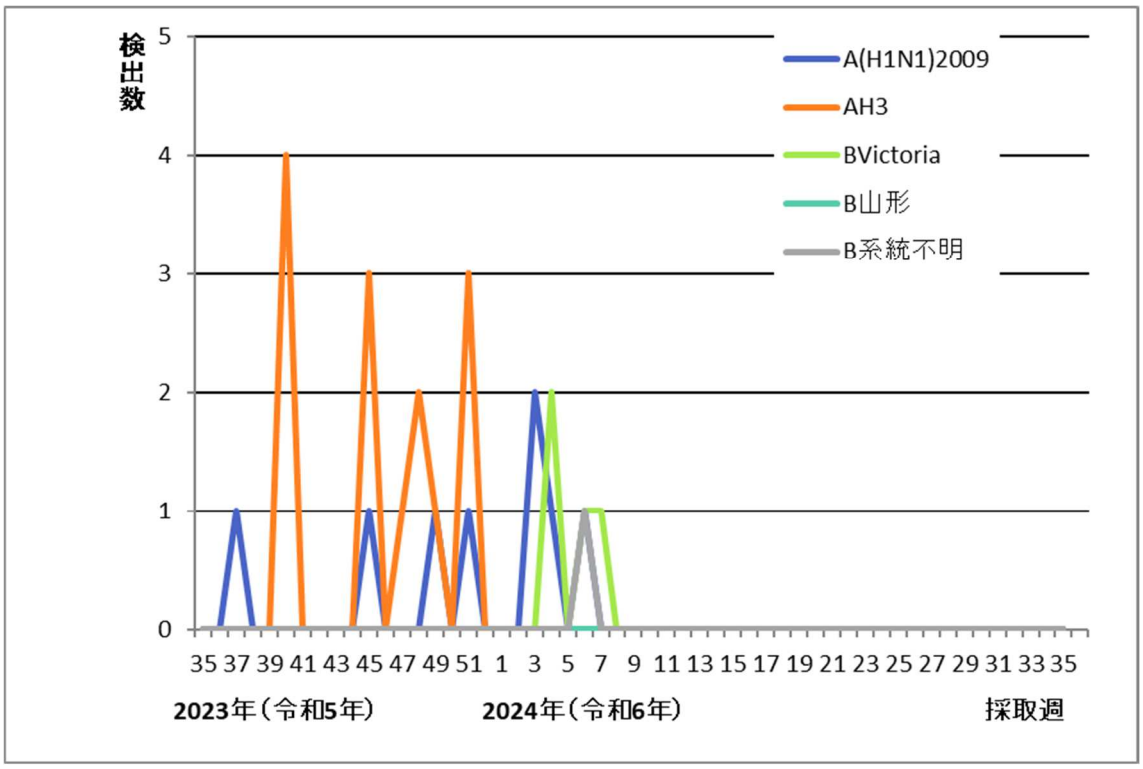
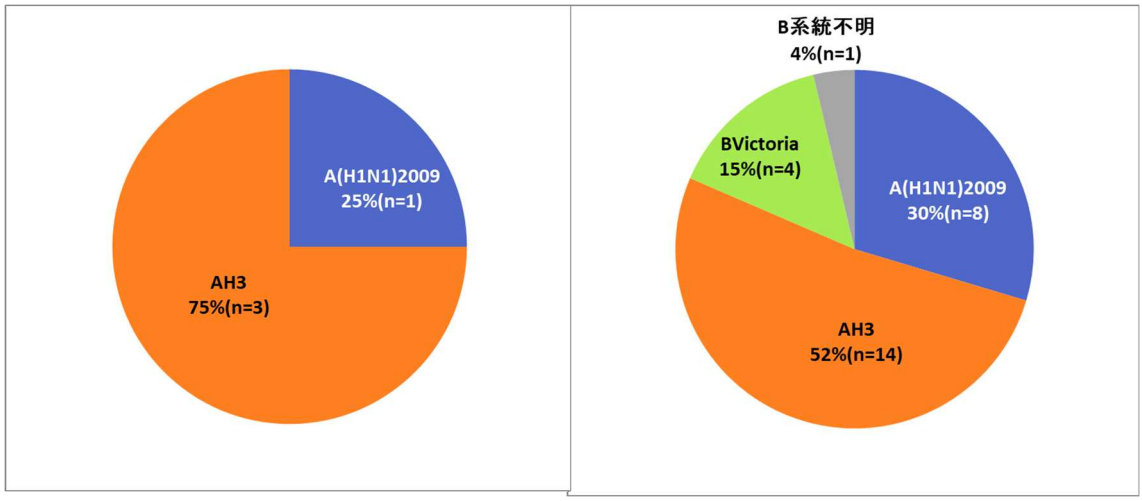
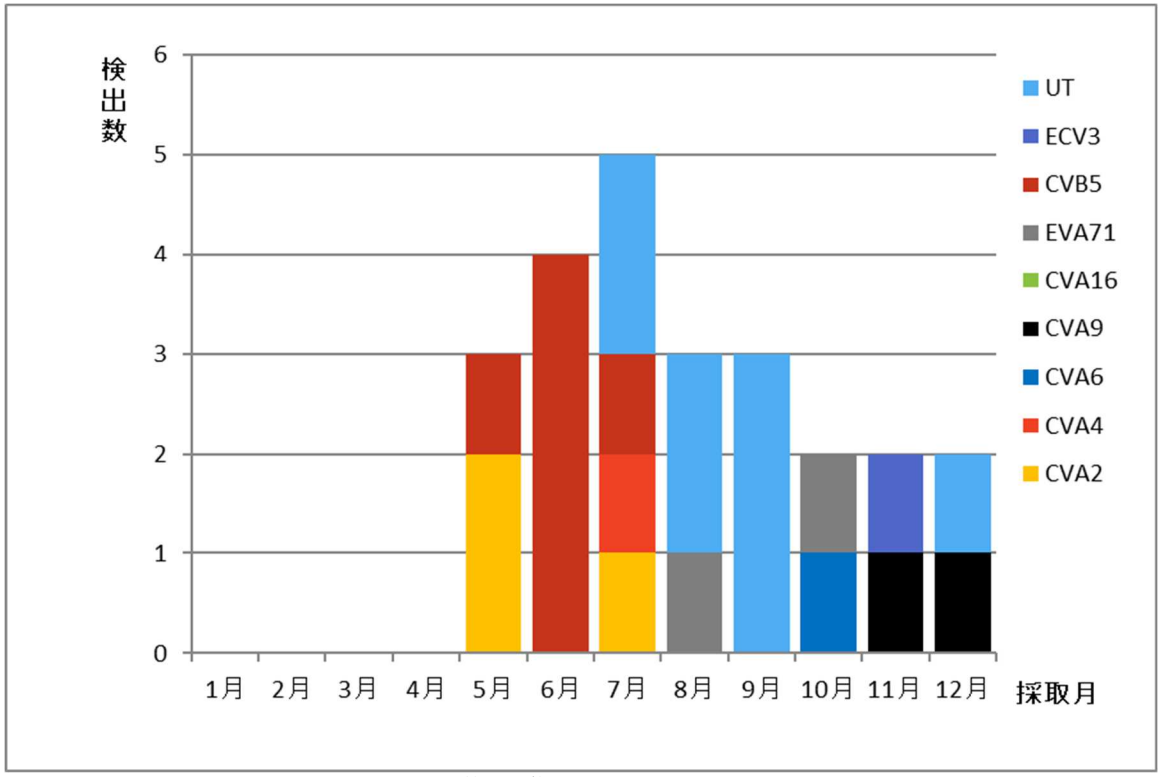


図 13-b　2023/24 シーズン　インフルエンザウイルス検出状況



＜2022/23 シーズン＞　　＜2023/24 シーズン＞

図 14　2022/23、2023/24 シーズンにおけるインフルエンザウイルス型別検出割合



※CV：コクサッキーウイルス　　UT：型別不能

図 15　令和 5 年　月別 エンテロウイルス検出状況

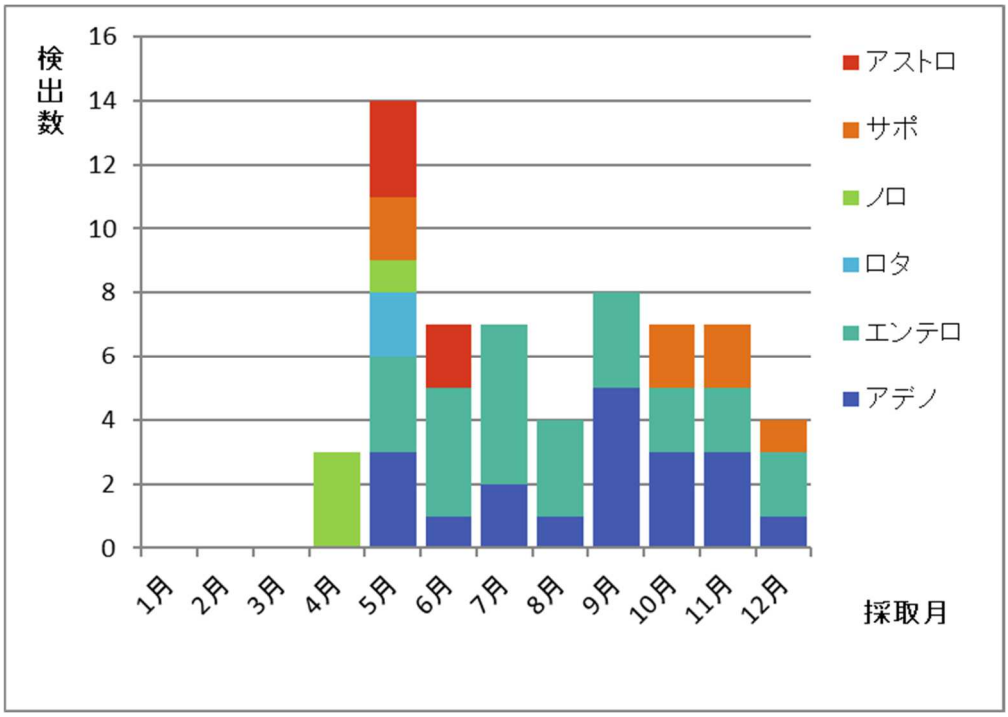


図 16　令和 5 年　月別 便検体由来ウイルス検出状況

6　鳥取県感染症発生動向調査情報 月報（抜粋）

（鳥取県感染症対策協議会情報解析部会）

鳥取県感染症発生動向調査情報（月報）

令 和 ５ 年 ２ 月 １０ 日 （ 金 ）
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和5年第1週から第4週までの患者報告の状況

1　報告の多い疾病（インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数）

今回(1週～4週)4週 (R5.1.2 ～ R5.1.29)		
1 インフルエンザ	(421)	[↑400]
2 感染性胃腸炎	(370)	[↑245]
3 A群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	(71)	[↓ 16]
4 突発性発疹	(17)	[↑ 1]
5 咽頭結膜熱	(11)	[↓ 6]
6 その他	(18)	[↓ 21]
	(合計	908)

前回(49週～52週)4週 (R4.12.5 ～ R5.1.1)	
1 感染性胃腸炎	(125)
2 A群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	(87)
3 手足口病	(25)
4 インフルエンザ	(21)
5 咽頭結膜熱	(17)
6 その他	(39)
(合計	314)

前々回(45週～48週)4週 (R4.11.7 ～ R4.12.4)	
1 感染性胃腸炎	(148)
2 A群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	(116)
3 ＲＳウイルス感染症	(84)
4 手足口病	(38)
5 突発性発疹	(16)
6 その他	(25)
(合計	427)

※[　　]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2　前回との比較増減

全体の報告数は908件であり、189%(594件)の増となった。

増加した疾病	
インフルエンザ	1905%
感染性胃腸炎	196%

減少した疾病	
手足口病	72%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	18%

3 コメント

・新型コロナウイルス感染症は、１月初旬をピークとして減少傾向となっていますが、感染者数は高いレベルが続いています。
引き続き人との距離が確保できない場面でのマスク着用、密を避ける、空気の流れを意識した換気、徹底した消毒やワクチン接種などを行い感染防止対策の強化を図るとともに、感染に備えてあらかじめ市販の解熱剤や抗原定性検査キットなどをご準備ください。
少しでも体調が悪いときは休暇を取り、ご自身の重症化リスクや症状に応じて自己検査や医療機関を受診してください。

・お子さまの新型コロナウイルスワクチン接種については有効性と安全性にかかる国内のデータが集積され、日本小児科学会は発症予防、重症化予防等のメリットが副反応等のデメリットを大きく上回ると判断し、ワクチン接種を推奨しています。
大切なお子さまの命と健康を守るため、ワクチン接種のご検討をお願いします。

・県内全域でインフルエンザが流行期入りしています。新型コロナと同様に、手洗いやマスク着用などの感染防止対策を行うなど、注意が必要です。

・感染性胃腸炎が増加しており、注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報（月報）

令 和 ５ 年 ３ 月 １０ 日 （ 金 ）
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和5年第5週から第8週までの患者報告の状況

１　報告の多い疾病（インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数）

今回(5週～8週)4週 (R5.1.30 ～ R5.2.26)	
１感染性胃腸炎	(621)[↑251]
２インフルエンザ	(348)[↓ 73]
３Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	(104)[↑ 33]
４突発性発疹	(26)[↑ 9]
５その他	(23)[↑ 5]
	(合計 1,122)

前回(1週～4週)4週 (R5.1.2 ～ R5.1.29)	
１インフルエンザ	(421)
２感染性胃腸炎	(370)
３ Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	(71)
４突発性発疹	(17)
５咽頭結膜熱	(11)
６その他	(18)
	(合計 908)

前々回(49週～52週)4週 (R4.12.5 ～ R5.1.1)	
１感染性胃腸炎	(125)
２ Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	(87)
３手足口病	(25)
４インフルエンザ	(21)
５咽頭結膜熱	(17)
６その他	(39)
	(合計 314)

※[　　]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

２　前回との比較増減

全体の報告数は1,122件であり、24%(214件)の増となった。

増加した疾病	
感染性胃腸炎	68%
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	46%

減少した疾病	
インフルエンザ	17%

３ コメント

・新型コロナウイルス感染症は、１月初旬をピークとして減少傾向が続いていますが、直近では下げ止まりの傾向がみられます。引き続き場面に応じた適切なマスクの着用、密を避ける、空気の流れを意識した換気、徹底した消毒やワクチン接種などを行い感染防止対策の強化を図るとともに、感染に備えてあらかじめ市販の解熱剤や抗原定性検査キットなどをご準備ください。
少しでも体調が悪いときは休暇を取り、ご自身の重症化リスクや症状に応じて自己検査や医療機関を受診してください。

・お子さまの新型コロナウイルスワクチン接種については有効性と安全性にかかる国内のデータが集積され、日本小児科学会は発症予防、重症化予防等のメリットが副反応等のデメリットを大きく上回ると判断し、ワクチン接種を推奨しています。大切なお子さまの命と健康を守るため、ワクチン接種のご検討をお願いします。

・インフルエンザの流行は県内全域で継続しており、集団感染事例もみられます。新型コロナウイルス感染症と同様に、手洗いやマスク着用などの感染防止対策を行うなど、注意が必要です。

・引き続き感染性胃腸炎が増加しています。集団感染事例も確認されており、トイレやオムツなどの汚物処理の後や、調理、食事の前などに手洗いを徹底いただくなど注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報（月報）

令 和 ５ 年 ４ 月 １４ 日 （ 金 ）
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和5年第9週から第13週までの患者報告の状況

１　報告の多い疾病（インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数）

今回(9 週～13 週)5 週 (R5.2.27 ～ R5.4.2)		
１感染性胃腸炎	(864)	[↑ 98]
２インフルエンザ	(678)	[↑264]
３Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	(128)	[↑ 6]
４突発性発疹	(19)	[↓ 12]
５咽頭結膜熱	(18)	[↑ 11]
６その他	(18)	[↓ 6]
	(合計 1,725)	

前回(4 週～8 週)5 週 (R5.1.23 ～ R5.2.26)	
１感染性胃腸炎	(766)
２インフルエンザ	(414)
３ Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	(122)
４突発性発疹	(31)
５その他	(24)
	(合計 1,357)

前々回(51 週～3 週)5 週 (R4.12.19 ～ R5.1.22)	
１インフルエンザ	(374)
２感染性胃腸炎	(286)
３ Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	(98)
４突発性発疹	(20)
５咽頭結膜熱	(17)
５手足口病	(17)
７その他	(22)
	(合計 834)

※[　　]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

２　前回との比較増減

全体の報告数は 1,725 件であり、27%(368 件)の増となった。

増加した疾病	
インフルエンザ	64%
感染性胃腸炎	13%
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5%

３ コメント

・新型コロナウイルス感染症は、１月初旬をピークとして減少傾向が続いていますが、下げ止まりの傾向がみられます。
また、季節も変わりゴールデンウィークを控え、会食やお出かけの機会も増えていきますので、引き続き場面に応じた適切なマスクの着用、密を避ける、空気の流れを意識した換気、徹底した消毒やワクチン接種などを行い感染防止対策の強化を図るとともに、感染に備えてあらかじめ市販の解熱剤や抗原定性検査キットなどをご準備ください。
少しでも体調が悪いときは休暇を取り、ご自身の重症化リスクや症状に応じて自己検査や医療機関の受診を行ってください。

・インフルエンザ注意報は解除されましたが、引き続き集団感染事例も報告されており、注意が必要です。
新型コロナウイルス感染症と同様に、手洗いやマスク着用などの感染予防をお願いします。

・感染性胃腸炎は減少傾向がみられるものの感染が続いており、集団感染事例も確認されています。トイレやオムツなどの汚物処理の後や、調理、食事の前などの手洗いを徹底いただくなど注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報（月報）

令 和 ５ 年 ５ 月 １９ 日 （ 金 ）
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和5年第14週から第17週までの患者報告の状況

１　報告の多い疾病（インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数）

今回(14 週～17 週)4 週 (R5.4.3 ～ R5.4.30)		
１感染性胃腸炎	(698)	[↑ 13]
２インフルエンザ	(178)	[↓379]
３Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	(141)	[↑ 40]
４ＲＳウイルス感染症	(27)	[↑ 24]
５突発性発疹	(23)	[↑ 7]
６その他	(26)	[↑ 13]
	(合計 1,093)	

前回(10 週～13 週)4 週 (R5.3.6 ～ R5.4.2)	
１感染性胃腸炎	(685)
２インフルエンザ	(557)
３ Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	(101)
４突発性発疹	(16)
５咽頭結膜熱	(15)
６その他	(13)
	(合計 1,387)

前々回(6 週～9 週)4 週 (R5.2.6 ～ R5.3.5)	
１感染性胃腸炎	(648)
２インフルエンザ	(386)
３ Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	(111)
４突発性発疹	(26)
５その他	(26)
	(合計 1,197)

※[　　]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

２　前回との比較増減

全体の報告数は 1,093 件であり、21%(294 件)の減となった。

増加した疾病	
ＲＳウイルス感染症	800%
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	40%
感染性胃腸炎	2%

減少した疾病	
インフルエンザ	68%

３ コメント

・新型コロナウイルス感染症は、１月初旬をピークとして減少傾向が続いた後、３月下旬から下げ止まりしていましたが、４月下旬からは増加の兆しがみられます。
新型コロナウイルス感染症は５類感染症に見直されましたが、感染力の高さに変わりはありませんので、周りの方や重症化リスクの高い方への感染を防ぐため、エアロゾルを意識した換気や手洗い、医療機関受診時等でのマスクの着用などの感染防止対策を行うとともに、感染時には無理せずに出勤や登校を控えましょう。

・インフルエンザは、冬シーズンが終わり減少傾向であるものの、集団感染は県内の保育所での発生のほか、県外の学校で大規模事例の報道があるなど、引き続き注意が必要です。手洗いや換気などの感染予防をお願いします。

・感染性胃腸炎は減少傾向がみられるものの感染が続いており、集団感染事例も確認されています。トイレやオムツなどの汚物処理の後や、調理、食事の前などの手洗いを徹底いただくなど注意が必要です。

・東部地区において、飼い犬の重症熱性血小板減少症候群が確認されました。また、西部地区では、つつが虫病が確認されています。いずれも病原体を保有するダニに刺されることで感染します。野山等に入るときは、長袖、長ズボンの着用、ダニ忌避剤の使用などの予防対策をとることが効果的です。

鳥取県感染症発生動向調査情報（月報）

令 和 ５年 ６月 １６日（ 金 ）
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和5年第18週から第21週までの患者報告の状況

１　報告の多い疾病（インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数）

今回(18 週～21 週)4 週 (R5.5.1 ～ R5.5.28)		
１感染性胃腸炎	(622)	[↓ 76]
２新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症	(255)	[—]
３インフルエンザ	(172)	[↓ 6]
４ A 群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	(159)	[↑ 18]
５ＲＳウイルス感染症	(54)	[↑ 27]
６その他	(104)	[↑ 78]
	(合計 1,366)	

前回(14 週～17 週)4 週 (R5.4.3 ～ R5.4.30)	
１感染性胃腸炎	(698)
２インフルエンザ	(178)
３ A 群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	(141)
４ＲＳウイルス感染症	(27)
５突発性発疹	(23)
６その他	(26)
	(合計 1,093)

前々回(10 週～13 週)4 週 (R5.3.6 ～ R5.4.2)	
１感染性胃腸炎	(685)
２インフルエンザ	(557)
３ A 群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	(101)
４突発性発疹	(16)
５咽頭結膜熱	(15)
６その他	(13)
	(合計 1,387)

注）新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、令和５年第 19 週からの報告件数。
※[　　]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

２　前回との比較増減

全体の報告数は 1,366 件であり、25%(273 件)の増となった。

増加した疾病	
ＲＳウイルス感染症	100%
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	13%

減少した疾病	
感染性胃腸炎	11%
インフルエンザ	3%

３ コメント

・西部地区において、県内４年ぶりとなる麻しんの発生がありました。麻しんは、本年５月に国内での感染伝播事例が報告されるなど、全国で感染事例が増加しており、注意が必要です。麻しんは、感染力が非常に強く、手洗いやマスクでは完全に防ぐことはできません。予防方法としてはワクチンの２回接種が有効です。
・新型コロナウイルス感染症は、４月下旬からゆるやかな増加傾向が続いています。新型コロナウイルス感染症は５類感染症に見直されましたが、感染力の高さに変わりはありませんので、周りの方や重症化リスクの高い方への感染を防ぐため、エアロゾルを意識した換気や手洗い、医療機関受診時等でのマスクの着用などの感染防止対策を行うとともに、感染時には無理せずに出勤や登校を控えましょう。
・インフルエンザは、冬シーズンが終わり減少傾向であるものの、引き続き県内外を問わず集団感染事例等が確認されています。また、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなど、様々な呼吸器感染症で増加傾向がみられており、注意が必要です。手洗いや換気などの感染予防をお願いします。
・感染性胃腸炎は例年に比べ感染者数が多い状況が続いており、集団感染事例も確認されています。トイレやオムツなどの汚物処理の後や、調理、食事の前の手洗いを徹底しましょう。
・東部地区において、飼い犬の重症熱性血小板減少症候群に引き続き、人の日本紅斑熱が確認されました。いずれも病原体を保有するダニに刺されることで感染します。野山等に入るときは、長袖、長ズボンの着用、ダニ忌避剤の使用などの予防対策をとることが効果的です。
・梅毒が増加しています。本年は５月末時点で既に昨年１年間の発生件数と同数報告されており、注意が必要です。早期発見と適切な治療が必要です。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

鳥取県感染症発生動向調査情報（月報）

令 和 ５ 年 ７ 月 １４ 日 （ 金 ）
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和5年第22週から第26週までの患者報告の状況

１　報告の多い疾病（インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数）

今回(22 週～26 週)5 週 (R5.5.29 ～ R5.7.2)	
１新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症	(704)[↑337]
２感染性胃腸炎	(671)[↓130]
３ヘルパンギーナ	(325)[↑305]
４ A群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	(272)[↑ 82]
５ＲＳウイルス感染症	(194)[↑116]
６その他	(196)[↑ 85]
	(合計 2,362)

前回(17 週～21 週)5 週 (R5.4.24 ～ R5.5.28)	
１感染性胃腸炎	(801)
２新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症	(367)
３インフルエンザ	(242)
４ A群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	(190)
５ＲＳウイルス感染症	(78)
６その他	(111)
	(合計 1,789)

前々回(12 週～16 週)5 週 (R5.3.20 ～ R5.4.23)	
１感染性胃腸炎	(844)
２インフルエンザ	(355)
３ A群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	(148)
４突発性発疹	(26)
５咽頭結膜熱	(18)
６その他	(21)
	(合計 1,412)

注）新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、令和５年第 19 週からの報告件数。
※[　　]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

２　前回との比較増減

全体の報告数は 2,362 件であり、32%(573 件)の増となった。

増加した疾病	
ヘルパンギーナ	1,525%
ＲＳウイルス感染症	149%
新型コロナウイルス感染症	92%
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	43%
咽頭結膜熱	41%

減少した疾病	
インフルエンザ	80%
感染性胃腸炎	16%

３ コメント

・新型コロナウイルス感染症は、４月下旬からゆるやかな増加傾向が続いていましたが、６月末に入り顕著な増加がみられており、注意が必要です。新型コロナウイルスの感染力の高さに変わりはありませんので、周りの方や重症化リスクの高い方への感染を防ぐため、エアロゾルを意識した換気や手洗い、医療機関受診時等でのマスクの着用などの感染防止対策を行いましょう。
体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。

・ヘルパンギーナが急増しており、県内全域でヘルパンギーナ警報を発令しています。また、咽頭結膜熱、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ＲＳウイルス感染症など、様々な呼吸器感染症でも増加傾向がみられており、注意が必要です。
ヘルパンギーナのウイルスにはアルコールが効きにくいため、手洗いの徹底や換気などの感染予防をお願いします。

・感染性胃腸炎は、例年に比べ感染者数が多い状況が続いており、集団感染事例も確認されています。トイレやオムツなどの汚物処理の後や、調理、食事の前の手洗いを徹底しましょう。

・梅毒が増加しています。本年は６月末時点で既に昨年１年間の発生件数以上の感染が報告されており、注意が必要です。早期発見と適切な治療が必要です。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

鳥取県感染症発生動向調査情報（月報）

令 和 ５年 ８月 １８日（ 金 ）
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和5年第27週から第30週までの患者報告の状況

１　報告の多い疾病（インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数）

今回(27 週～30 週)4 週 (R5.7.3 ～ R5.7.30)	前回(23 週～26 週)4 週 (R5.6.5 ～ R5.7.2)	前々回(19 週～22 週)4 週 (R5.5.8 ～ R5.6.4)
１新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症 (2,034)[↑1,453]	１新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症 (581)	１感染性胃腸炎 (652)
２ヘルパンギーナ (379)[↑ 70]	２感染性胃腸炎 (518)	２新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症 (378)
３ＲＳウイルス感染症(377)[↑204]	３ヘルパンギーナ (309)	３ Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎 (175)
４感染性胃腸炎 (346)[↓172]	４ Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎 (223)	４インフルエンザ (138)
５ Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎(209)[↓ 14]	５ＲＳウイルス感染症 (173)	５ＲＳウイルス感染症 (74)
６その他 (273)[↑133]	６その他 (140)	６その他 (135)
(合計 3,618)	(合計 1,944)	(合計 1,552)

※[　　]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

２　前回との比較増減

全体の報告数は3,618件であり、86%(1,674件)の増となった。

増加した疾病	
手足口病	286%
インフルエンザ	283%
新型コロナウイルス感染症	250%
ＲＳウイルス感染症	118%
ヘルパンギーナ	23%

減少した疾病	
咽頭結膜熱	52%
感染性胃腸炎	33%
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6%

３ コメント

・新型コロナウイルス感染症は、６月末から顕著な増加がみられ７月末をピークに少し減少しているものの、引き続き感染者が多く報告されています。また高齢者など重症化リスクの高い患者の増加による医療負荷にも注意が必要です。
新型コロナウイルスの感染力の高さに変わりはありませんので、周りの方や重症化リスクの高い方への感染を防ぐため、エアロゾルを意識した換気や手洗い、医療機関受診時等でのマスクの着用などの感染防止対策を行いましょう。
咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。

・西部地区を中心に手足口病が増加しており、８月９日付けで県内全域に手足口病警報を発令しました。乳幼児・小児に多く発症するため、注意が必要です。

・ヘルパンギーナ警報を発令しています。患者報告数はピークを越えましたが、引き続き注意が必要です。ヘルパンギーナのウイルスにはアルコールが効きにくいため、手洗いの徹底や換気などの感染予防をお願いします。

・梅毒が増加しており、注意が必要です。本年は６月末時点で既に昨年１年間の発生件数以上の感染が報告されています。早期発見と適切な治療が必要です。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

鳥取県感染症発生動向調査情報（月報）

令 和 ５ 年 ９ 月 １５ 日 （ 金 ）
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和5年第31週から第35週までの患者報告の状況

１　報告の多い疾病（インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数）

今回(31 週～35 週)5 週 (R5.7.31 ～ R5.9.3)	
１新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症	(3,059)［↑840］
２感染性胃腸炎	(329)［↓121］
３Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	(264)［↓　4］
４手足口病	(244)［↑　96］
５インフルエンザ	(242)［↑142］
６その他	(393)［↑　87］
	(合計 4,531)

前回(26 週～30 週)5 週 (R5.6.26 ～ R5.7.30)	
１新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症	(2,219)
２ヘルパンギーナ	(496)
３感染性胃腸炎	(450)
４ＲＳウイルス感染症	(435)
５Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	(268)
６その他	(306)
	(合計 4,174)

前々回(21 週～25 週)5 週 (R5.5.22 ～ R5.6.25)	
１感染性胃腸炎	(732)
２新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症	(602)
３ Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	(275)
４ヘルパンギーナ	(219)
５ＲＳウイルス感染症	(149)
６その他	(213)
	(合計 2,190)

※[　　]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

２　前回との比較増減

全体の報告数は 4,531 件であり、9%(357 件)の増となった。

増加した疾病	
インフルエンザ	142%
手足口病	65%
新型コロナウイルス感染症	38%

減少した疾病	
ヘルパンギーナ	67%
ＲＳウイルス感染症	57%
感染性胃腸炎	27%
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1%

３ コメント

・新型コロナウイルス感染症は、７月下旬をピークに感染者が減少傾向にあるものの、依然として多い状態が続いています。
新型コロナウイルスの感染力の高さに変わりはありません。エアロゾルを意識した換気や手洗い、近接した会話時や混雑した場所、医療機関へ行かれる際などの場面に応じたマスク着用により感染を防止するとともに、ワクチン接種を検討しましょう。
咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。

・インフルエンザが増加しており、集団感染事例も確認されています。新型コロナウイルス感染症と同様に、手洗い、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策や、ワクチン接種の検討をお願いします。

・手足口病が増加しており、県内全域に手足口病警報を発令しています。また、ヘルパンギーナについても警報は解除されましたが、引き続き注意が必要です。どちらも原因となるウイルスにアルコール消毒が効きにくいため、手洗いの徹底や換気などの感染予防をお願いします。

・梅毒が増加しており、注意が必要です。本年は６月末時点で既に昨年１年間の発生件数以上の感染が報告されています。早期発見と適切な治療が必要です。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

鳥取県感染症発生動向調査情報（月報）

令 和 ５年 １０月 １３日（ 金 ）
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和5年第36週から第39週までの患者報告の状況

１　報告の多い疾病（インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数）

今回(36 週～39 週)4 週 (R5.9.4 ～ R5.10.1)	前回(32 週～35 週)4 週 (R5.8.7 ～ R5.9.3)	前々回(28 週～31 週)4 週 (R5.7.10 ～ R5.8.6)
１新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症 (1,409)[↓1,013]	１新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症(2,422)	１新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症(2,324)
２インフルエンザ (575)[↑382]	２感染性胃腸炎 (247)	２感染性胃腸炎 (322)
３Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎(309)[↑101]	３ Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎 (208)	３ＲＳウイルス感染症 (321)
４感染性胃腸炎 (235)[↓ 12]	４インフルエンザ (193)	４ヘルパンギーナ (301)
５手足口病 (213)[↑ 26]	５手足口病 (187)	５ Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎 (203)
６その他 (160)[↓113]	６その他 (273)	６その他 (342)
(合計 2,901)	(合計 3,530)	(合計 3,813)

※[　　]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

２　前回との比較増減

全体の報告数は 2,901 件であり、18%(629 件)の減となった。

増加した疾病	
インフルエンザ	198%
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	49%
手足口病	14%

減少した疾病	
ＲＳウイルス感染症	60%
新型コロナウイルス感染症	42%
ヘルパンギーナ	41%
感染性胃腸炎	5%

３ コメント

・新型コロナウイルス感染症は、７月下旬をピークに減少傾向が続き、収束に向かいつつあります。なお、新型コロナウイルスの感染力の高さに変わりないため、エアロゾルを意識した換気や手洗い、近接した会話時や混雑した場所、医療機関へ行かれる際などの場面に応じたマスク着用により感染を防止するとともに、ワクチン接種を検討しましょう。
咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。

・インフルエンザが増加しており、集団感染事例も継続的に確認されています。例年より流行が早まっていますので、新型コロナと同様に、手洗い、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策や、ワクチン接種の検討をお願いします。

・Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎が増加しており、県内全域にＡ群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報を発令しています。手洗い、消毒等の感染予防をお願いします。

・手足口病警報を発令しています。原因となるウイルスにアルコール消毒が効きにくいため、手洗いの徹底や換気などの感染予防をお願いします。

・西部地区において、重症熱性血小板減少症候群、東部地区において日本紅斑熱が確認されています。いずれも病原体を保有するダニに刺されることで感染します。野山等に入るときは、長袖、長ズボンの着用、ダニ忌避剤の使用などの予防対策をとることが必要です。

・梅毒が増加しており、注意が必要です。本年は９月末時点で昨年１年間の１５件を上回る２５件の感染が報告されています。早期発見と適切な治療が必要です。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

鳥取県感染症発生動向調査情報（月報）

令 和 ５ 年 １１ 月 １７ 日 （ 金 ）
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和5年第40週から第43週までの患者報告の状況

１　報告の多い疾病（インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数）

今回(40 週～43 週)4 週 (R5.10.2 ～ R5.10.29)	
１インフルエンザ	(1,500)[↑925]
２A 群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	(519)[↑210]
３新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症	(437)[↓972]
４感染性胃腸炎	(271)[↑ 36]
５手足口病	(130)[↓ 83]
６その他	(105)[↓ 55]
	(合計 2,962)

前回(36 週～39 週)4 週 (R5.9.4 ～ R5.10.1)	
１新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症	(1,409)
２インフルエンザ	(575)
３ A 群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	(309)
４感染性胃腸炎	(235)
５手足口病	(213)
６その他	(160)
	(合計 2,901)

前々回(32 週～35 週)4 週 (R5.8.7 ～ R5.9.3)	
１新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症	(2,422)
２感染性胃腸炎	(247)
３ A 群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	(208)
４インフルエンザ	(193)
５手足口病	(187)
６その他	(273)
	(合計 3,530)

※[　　]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

２　前回との比較増減

全体の報告数は 2,962 件であり、2%(61 件)の増となった。

増加した疾病	
インフルエンザ	161%
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	68%
感染性胃腸炎	15%

減少した疾病	
ＲＳウイルス感染症	73%
新型コロナウイルス感染症	69%
ヘルパンギーナ	59%
手足口病	39%

３ コメント

・インフルエンザが増加しており、県内全域にインフルエンザ警報を発令しました。例年より流行が早まっており、さらなる流行の拡大に注意が必要です。
新型コロナウイルス感染症は、今夏の流行は概ね収束となりましたが、冬シーズンの再流行に注意が必要です。いずれも、手洗い、換気、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策や、ワクチン接種の検討をお願いします。
咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。

・県内全域にＡ群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報を発令しています。手洗い、消毒等の感染予防をお願いします。

・西部地区において、重症熱性血小板減少症候群、東部地区において日本紅斑熱が確認されています。いずれも病原体を保有するダニに刺されることで感染します。野山等に入るときは、長袖、長ズボンの着用、ダニ忌避剤の使用などの予防対策をとることが必要です。

・梅毒が増加しており、注意が必要です。本年は１０月末時点で昨年１年間の１５件を上回る２６件の感染が報告されています。早期発見と適切な治療が必要です。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

鳥取県感染症発生動向調査情報（月報）

令 和 ５年 １２月 １５日（ 金 ）
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和5年第44週から第48週までの患者報告の状況

１　報告の多い疾病（インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数）

今回(44 週～48 週)5 週 (R5.10.30 ～ R5.12.3)	前回(39 週～43 週)5 週 (R5.9.25 ～ R5.10.29)	前々回(34 週～38 週)5 週 (R5.8.21 ～ R5.9.24)
１インフルエンザ(4,332)[↑2,706]	１インフルエンザ (1,626)	１新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症(2,383)
２A 群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎(765)[↑146]	２新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症 (627)	２インフルエンザ (589)
３感染性胃腸炎 (348)[↑ 14]	３ A 群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎 (619)	３ A 群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎 (344)
４新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症 (321)[↓306]	４感染性胃腸炎 (334)	４感染性胃腸炎 (317)
５手足口病 (92)[↓102]	５手足口病 (194)	５手足口病 (249)
６その他 (116)[↓ 23]	６その他 (139)	６その他 (252)
(合計 5,974)	(合計 3,539)	(合計 4,134)

※[　　]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

２　前回との比較増減

全体の報告数は 5,974 件であり、69%(2,435 件)の増となった。

増加した疾病	
インフルエンザ	166%
咽頭結膜熱	106%
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	24%
感染性胃腸炎	4%

減少した疾病	
手足口病	53%
新型コロナウイルス感染症	49%

３ コメント

・県内全域にインフルエンザ警報を発令しています。例年より流行が早く、学校の臨時休業や保育所等での集団感染も多数報告されており、今後さらなる流行の拡大に注意が必要です。
新型コロナウイルス感染症は、今夏の流行収束後、低いレベルで推移していましたが、１１月末から増加の兆候が見られ、冬シーズンの再流行に注意が必要です。
いずれも、手洗い、換気、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策や、ワクチン接種の検討をお願いします。咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。

・県内全域にＡ群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報を発令しています。手洗い、消毒、咳エチケット等の感染予防をお願いします。

・梅毒が増加しており、注意が必要です。本年は１１月末時点で昨年１年間の１５件の２倍に迫る２８件の感染が報告されています。早期発見と適切な治療が必要です。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

鳥取県感染症発生動向調査情報（月報）

令 和 ６ 年 １ 月 １９ 日 （ 金 ）
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和5年第49週から第52週までの患者報告の状況

１　報告の多い疾病（インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数）

今回(49 週～52 週)4 週 (R5.12.4 ～ R5.12.31)		
１インフルエンザ	(2,646)	[↓863]
２A 群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	(714)	[↑ 56]
３新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症	(530)	[↑287]
４感染性胃腸炎	(277)	[↓ 2]
５咽頭結膜熱	(81)	[↑ 28]
６その他	(52)	[↓ 35]
	(合計 4,300)	

前回(45 週～48 週)4 週 (R5.11.6 ～ R5.12.3)	
１インフルエンザ	(3,509)
２ A 群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	(658)
３感染性胃腸炎	(279)
４新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症	(243)
５手足口病	(75)
６その他	(87)
	(合計 4,851)

前々回(41 週～44 週)4 週 (R5.10.9 ～ R5.11.5)	
１インフルエンザ	(2,129)
２ A 群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	(514)
３新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症	(379)
４感染性胃腸炎	(254)
５手足口病	(91)
６その他	(99)
	(合計 3,466)

※[　　]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

２　前回との比較増減

全体の報告数は 4,300 件であり、11%(551 件)の減となった。

増加した疾病	
新型コロナウイルス感染症	118%
咽頭結膜熱	53%
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9%

減少した疾病	
手足口病	77%
インフルエンザ	25%
感染性胃腸炎	1%

３ コメント

・県内全域にインフルエンザ警報を発令しています。感染のピークは越えましたが、引き続き注意が必要です。
新型コロナウイルス感染症は、冬シーズンに入り、増加傾向が続いており、今後さらなる感染の拡大に注意が必要です。いずれも、手洗い、換気、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策や、ワクチン接種の検討をお願いします。
咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。

・県内全域にＡ群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報を発令しています。手洗い、消毒、咳エチケット等の感染予防をお願いします。

・梅毒が増加しており、注意が必要です。令和５年は前年の１５件の２倍に迫る２９件の感染が報告されています。早期発見と適切な治療が必要です。
感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

7　参　考　資　料

指定届出機関（定点把握対象の5類感染症患者定点医療機関）

令和5年12月31日現在

（1）小児科患者定点（インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症 / 19）

東部	医療法人石谷小児科医院	鳥取市上魚町13
	おおたにこどもファミリークリニック	鳥取市国府町新通り3-301-1
	こどもクリニックふかざわ	鳥取市南隈565
	おくだこどもクリニック	鳥取市湖山町東3-67
	鳥取赤十字病院	鳥取市尚徳町117
	中山小児科内科医院	八頭郡八頭町宮谷206-9
	田中医院	鳥取市青谷町井手575
	医療法人社団荻原医院	鳥取市河原町長瀬82-1
中部	こどもクリニックおんだ	東伯郡湯梨浜町田後340-5
	医療法人まつだ小児科医院	倉吉市新町3-1178-3
	鳥取県立厚生病院	倉吉市東昭和町150
	医療法人せのおクリニック	東伯郡琴浦町赤崎1984-10
西部	こどもクリニックかさぎ	米子市中町76-2
	医療法人社団白石医院	米子市安倍129-3
	谷本こどもクリニック	米子市榎原1888-3
	社会医療法人同愛会博愛こども発達・在宅支援クリニック	米子市両三柳1880
	ファミリークリニックせぐち小児科	米子市西福原9-16-26
	岡空小児科医院	境港市浜ノ町127
	日南町国民健康保険日南病院	日野郡日南町生山511-7

（2）内科患者定点（インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症 / 10）

東部	医療法人安陪内科医院	鳥取市吉方温泉3-811-2
	鳥取市立病院	鳥取市的場1-1
	鳥取県立中央病院	鳥取市江津730
	鳥取赤十字病院	鳥取市尚徳町117
中部	のぐち内科クリニック	倉吉市上井町1-8-5
	鳥取県立厚生病院	倉吉市東昭和町150
西部	安達医院	米子市両三柳2048
	鳥取県済生会境港総合病院	境港市米川町44
	社会医療法人同愛会博愛病院	米子市両三柳1880
	かわたに医院	米子市車尾南1丁目8-30

（3）眼科患者定点（5）

東部	前嶋眼科医院	鳥取市元町226
	おけがわ眼科	鳥取市叶293-12
中部	医療法人井東医院	倉吉市上灘町172
西部	はまはし眼科医院	境港市渡町2768-1
	ふなこし眼科ペインクリニック	米子市紺屋町15

（4）性感染症（ＳＴＤ）患者定点（7）

東部	吉野・三宅ステーションクリニック	鳥取市扇町 176
	鳥取赤十字病院	鳥取市尚徳町 117
	鳥取産院	鳥取市吉方温泉 1-653
中部	医療法人清生会谷口病院	倉吉市上井町 1-13
西部	山本クリニック	米子市車尾南 1-8-32
	社会医療法人同愛会博愛病院	米子市両三柳 1880
	脇田産婦人科医院	米子市中町 123-5

（5）基幹患者定点（5）

東部	鳥取市立病院	鳥取市的場 1-1
	鳥取県立中央病院	鳥取市江津 730
中部	鳥取県立厚生病院	倉吉市東昭和町 150
西部	鳥取県済生会境港総合病院	境港市米川町 44
	鳥取大学医学部附属病院	米子市西町 36-1

（6）疑似症定点（6）

東部	鳥取赤十字病院	鳥取市尚徳町 117
	鳥取市立病院	鳥取市的場 1-1
	鳥取県立中央病院	鳥取市江津 730
中部	鳥取県立厚生病院	倉吉市東昭和町 150
西部	鳥取県済生会境港総合病院	境港市米川町 44
	鳥取大学医学部附属病院	米子市西町 36-1

指定届出機関（定点把握対象の５類感染症病原体定点医療機関）

令和５年 12 月 31 日現在

（１）小児科病原体定点

東部	こどもクリニックふかざわ	鳥取市南隈 565
	鳥取県立中央病院	鳥取市江津 730
中部	鳥取県立厚生病院	倉吉市東昭和町 150
西部	こどもクリニックかさぎ	米子市中町 76-2
	社会医療法人同愛会博愛こども発達・在宅支援クリニック	米子市両三柳 1880
	鳥取大学医学部附属病院	米子市西町 36-1
	岡空小児科医院	境港市浜ノ町 127

（２）インフルエンザ病原体定点（指定提出機関）※小児科３、内科２選定

東部	こどもクリニックふかざわ（小児科）	鳥取市南隈 565
	鳥取県立中央病院（内科）	鳥取市江津 730
中部	鳥取県立厚生病院（小児科）	倉吉市東昭和町 150
西部	こどもクリニックかさぎ（小児科）	米子市中町 76-2
	かわたに医院	米子市車尾南１丁目 8-30

（３）眼科病原体定点

東部	おけがわ眼科	鳥取市叶 293-12
中部	医療法人井東医院	倉吉市上灘町 172
西部	ふなこし眼科ペインクリニック	米子市紺屋町 15

（４）基幹病原体定点

東部	鳥取県立中央病院	鳥取市江津 730
中部	鳥取県立厚生病院	倉吉市東昭和町 150
西部	鳥取大学医学部附属病院	米子市西町 36-1

鳥取県感染症対策協議会情報解析部会委員名簿(令和5年)

機関等	職名	氏名	備考
鳥取大学医学部附属病院 感染制御部（高次感染症センター）	副院長	千酌浩樹	
鳥取大学医学部　総合内科医学講座 周産期・小児医学分野	助教	倉信奈緒美	
公益社団法人 鳥取県西部医師会	監事	瀬口正史	
鳥取赤十字病院 小児科	部長	木下朋絵	
鳥取県立中央病院 医療局小児科	部長	倉信裕樹	
鳥取県立厚生病院 小児科	部長	河場康郎	